

キャンパス・施設／附属学校・幼稚園

キャンパス・施設

白山キャンパス



文学部／経済学部／経営学部／法学部／社会学部／国際学部／
国際観光学部
文学研究科／経済学研究科／経営学研究科／法学研究科／
社会学研究科／国際学研究科／国際観光学研究科

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL.03-3945-7224

川越キャンパス



理工学部／総合情報学部
理工学研究科／総合情報学研究科

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
TEL.049-239-1300

総合スポーツセンター

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1
TEL.03-6454-3340

赤羽台キャンパス



情報連携学部／福祉社会デザイン学部／健康スポーツ科学部
情報連携学研究科／社会福祉学研究科／ライフデザイン学研究科／
健康スポーツ科学研究科

〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11
TEL.03-5924-2100

朝霞キャンパス



生命科学部／食環境科学部
生命科学研究科／食環境科学研究科

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
TEL.048-468-6311

附属学校・幼稚園

東洋大学附属
姫路中学校・高等学校



〒671-2201
兵庫県姫路市書写1699
TEL.079-266-2626

東洋大学附属
牛久中学校・高等学校



〒300-1211
茨城県牛久市柏田町1360-2
TEL.029-872-0350

東洋大学
京北中学高等学校



〒112-8607
東京都文京区白山2-36-5
TEL.03-3816-6211

東洋大学附属
京北幼稚園



〒113-0021
東京都文京区本駒込2-13-5
TEL.03-3941-7090

TOYO COMPASS 2025

TOYO UNIVERSITY REPORT



東洋大学

ALL for the FUTURE. ALL from PHILOSOPHY.

哲学を通して世界の本質を見極め、

倫理的な考え方にに基づき、他者と協働して一歩踏み出す。

哲学を基礎とする教育から、東洋大学は未来づくりに貢献する。

建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」

「独立自活」

「知徳兼全」

東洋大学の教育理念

自分の哲学を持つ

本質に迫って深く考える

主体的に社会の課題に取り組む

東洋大学の心

他者のために自己を磨く

活動の中で奮闘する

「建学の理念」の詳細はWebサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/concept/>



哲学教育を礎とし 世界に通用する人材を育てる

1887(明治20)年に哲学者 井上円了が創立した「私立哲学館」から、その歴史が始まった東洋大学。急速な近代化と共に日本社会が大きく変わろうとしていたこの時代、日本人の拠り所を取り戻すためには「哲学」が必要であると円了は考えました。哲学館では、いわゆる哲学者を養成するのではなく、哲学を通じて知力を磨き、社会で活躍できる人材を育成することを教育目標としました。現在の東洋大学も、井上円了の理念を受け継ぎ、社会に資する人材を育てています。

1858(安政5)年、新潟県長岡市浦の慈光寺の跡取りとして誕生。漢学や洋学などを学んだ後、1881年(明治14)年に東京大学文学部哲学科に入学し、「真理は哲学にある」ことを確信しました。29歳の若さで東洋大学の前身となる哲学館を創立して学校教育に邁進。また、全国巡回講演や3回もの海外視察を行うほか、精神集中の場としての哲学堂公園の建設にも身を捧げ、1919(大正8)年に生涯を閉じるまで、社会教育にも力を尽くしました。



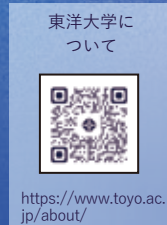
創立者 井上円了
(1858~1919)

東洋大学の沿革

- 1887 井上円了が本郷区龍岡町の麟祥院内に私立哲学館(東洋大学の前身)を創立
- 1897 小石川区原町に新校舎落成(現・白山キャンパス)
- 1899 私立京北尋常中学校※を開設
※現・東洋大学京北中学高等学校
- 1905 京北幼稚園※を開設
※現・東洋大学附属京北幼稚園
- 1906 私立東洋大学と改称
- 1916 日本の私立大学で初めて女子の入学を許可
- 1920 「私立」の冠称が廃止され、東洋大学へ改称
- 1949 新制大学に移行、文学部を設置
- 1952 大学院を設置
- 1961 川越キャンパス(埼玉県)を開設
- 1963 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を開設
- 1964 東洋大学附属牛久高等学校(茨城県)を開設
- 1977 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設
- 1997 板倉キャンパス(群馬県)を開設
- 2005 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)の1・2年次を白山キャンパスに統合し、4年間一貫教育開始
- 2006 大手町サテライト(東京都)を開設
白山第2キャンパス(東京都)を開設
- 2011 総合スポーツセンター(東京都)完成
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を併設校とする
- 2012 創立125周年
- 2014 東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)を開設
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)」採択
- 2015 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、東京都文京区白山に移転
東洋大学附属牛久中学校(茨城県)を開設
- 2017 赤羽台キャンパス(東京都)を開設
- 2021 ライフデザイン学部・ライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスに移転
- 2023 赤羽台キャンパスに福祉社会デザイン学部と健康スポーツ科学部を開設
- 2024 朝霞キャンパスを再整備、新校舎が完成
生命科学部と食環境科学部が朝霞キャンパスに移転
- 2025 川越キャンパス再開発開始

未来を哲学する、東洋大学

中期計画を礎とし、明るい未来の実現に向けて奮闘する東洋大学。
今後のビジョンや注力していく各取り組みについて、安齋理事長と矢口学長に話を伺いました。



学校法人東洋大学 理事長

安齋 隆

1941年生まれ。東北大学法学部卒業。日本銀行、(株)日本長期信用銀行(現・(株)新生銀行)頭取、(株)アイワイバンク銀行(現・(株)セブン銀行)社長などを経て、2009年12月学校法人東洋大学理事に就任し、2018年12月から現職。

Anzai Takashi

地球の未来を守る

しなやかな強さを育む

真の目的を見定めて 未来のために行動する

人類を含む地球上のあらゆる動植物は、深刻な困難に直面しています。地球温暖化による異常気象、頻発する災害や飢饉——それは単なる環境問題にとどまらず、社会の分断や不安の連鎖をも引き起こしています。これまでの地球の歴史を俯瞰した時、私たち人類は、重要な岐路に立たされているといえるでしょう。人類は今後も破壊の道を歩み続けるのか、それとも地球の未来を守るのか、選択が問われています。私自身は、国連が提唱するSDGsの理念に共鳴し、生きとし生けるものすべてのために行動していきたいと考えています。

「誰のために行動するのか」を見失わずに、真摯に向き合うこと。それは大学経営においても同様です。大学が向き合う相手は、他でもない「学生」。東洋大学は、常に学生を中心に据え、教職員が一丸となって教育・研究に取り組んでいます。そして、学校法人東洋大学は新たな中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を策定しました。創業者 井上円了の志を現在に受け継ぎ、先行き不透明な現代社会において、「いま、何をなすべきか」という問いに対する私たちの答えを、この計画に込めました。私が学生に期待するのは、自身の生き方を真剣に考えることです。東洋大学での学びを通じて、自らの人生を切り拓く力を育んでほしいと願っています。

充実した環境で学びを深める 人間力を育てる大学へ

技術革新が著しい現代社会においては、学生のニーズも時代と共に変化します。大学はその変化を的確に見極め、柔軟に対応する経営方針を打ち出していかなければなりません。また、大学は学生や社会からの期待と信頼を背負う存在です。その信頼に応え続けるためには、単に学問を教えるだけでなく、人間としての強さも育む必要があります。どれだけ豊富な知識を持っても、人の良さから犯罪に巻き込まれてしまうようでは、人間性を育むという教育機関の本来の役割を果たしているとは言えません。自らを守る力、困難に立ち向かうしなやかな強さを備えた心の教育も欠かせないのです。

こうした観点から、学校法人東洋大学では、東洋大学における「総合知」教育をはじめ、附属校や幼稚園においても、それぞれの段階に応じた“学習者本位の教育”を充実させ、本質を見極め、深く思考する力を育んでいます。創業者 井上円了が特に尊重した東西の4人の哲学者「四聖」のうちの一人が釈迦です。釈迦は、「心身一如」つまり心と身体は一つだと説きました。この教えを現代に受け継ぎ、東洋大学ではスポーツを通じて、心と身体の両面から学生の成長を支えています。競技に打ち込む学生も、それを応援する学生も、大学全体が一つになって全力を尽くします。そんな学生たちのひたむきな姿が、私自身の大きなモチベーションです。これからも学生たちのために、全力で大学改革に取り組んでいきます。

東洋大学 学長 矢口 悦子

1956年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得満期退学。博士(人文科学)。専門分野は社会教育学・生涯学習論。複数大学の非常勤講師および他大学教授を経て、2003年4月から東洋大学文学部教授。文学部長などを歴任し、2020年4月から現職。

Yaguchi Etsuko

現代社会を生き抜くために 自己の哲学を養う

日本では、18歳人口の減少が続いています。今後の動向をしっかりと理解したうえで、私立大学として学問研究を通じて誠実に向き合っていくことが私たちの使命だと考えています。大学が高等教育機関であり続けるためには、基礎学力を備えた学生の確保が重要になります。近年学力試験を課さない入試制度が増加する中、東洋大学では年内入試においても、その一つとして基礎学力を問う入試を導入しました。これは、日々の学びを地道に積み重ねてきた学生を正當に評価し、受け入れることを目的とした制度です。

AIが急速に普及する現代において、東洋大学が育成を目指すのは次のような力を持った人材です。第一に、AIが提供する情報の正しさを検証できる力。第二に、その情報をもとに倫理的に判断して行動する力です。学問を通じて誤情報を見抜く目を養い、他者への影響を踏まえたうえで自律的に判断することは、本学が大切にしている「哲学する力」とも深く結びついています。哲学とは、他者の考えとも向き合いながら、自分なりの答えを掘り下げていくことです。そこには「正解」も「不正解」もありません。粘り強く考え、問い続けることが哲学であり、大学での学びの本質ではないでしょうか。

また、教育理念の一つに「主体的に社会の課題に取り組む」というものがあります。ここでの主体性とは単に自ら望んで行動することではありません。誰かのために行動したことで感謝され、喜びを感じる。そうした体験を重ねながら、他者との関係において自分の存在を自覚することの積み重ねが、主体性を育むことにつながるわけです。

対話から生まれる新しい学び すべての学生に知の扉を開く

2025年4月から「総合知」教育が始まりました。きっかけは、学生の声でした。「ある先生の授業を楽しみにしていたの



哲学を基礎とする教育で

新しい知をデザインする

に、キャンパスが違って受けられなかった」。この言葉にショックを受けた私たちは、東洋大学が誇る豊富な知の資源に全学生がアクセスできる環境を作りたいと考えました。その結果、600科目以上が学部やキャンパスの垣根を超えて履修可能になったのです。関心に沿った学びとの出会いをサポートするため、AIが学生の属性や専門性を踏まえておすすめの科目を提示する「総合知アプリ」も学内で開発しました。一人ひとりが新しい知をデザインし、社会課題の解決に貢献する人材へと育つことを期待しています。また、あらゆる「いのち」の調和を目指す研究を推進する「いのち総合研究機構」も新たに設置しました。「東洋大学重点研究推進プログラム」の枠組みに哲学的・倫理的視点を加えながら、複合的な観点で研究の価値を高め、一層の社会貢献を追究していきます。このように多くの大学改革を進める中で、私が大切にしているのが「対話」です。これからも積極的なコミュニケーションを大切にしながら、より良い大学づくりを目指してチャレンジを続けていきます。

TOYO GRAND DESIGN 2025 - 2029

私たちは環境問題や人口問題をはじめ、短期的な視点では解決が困難な多くの課題に直面しています。

このような困難な課題に対し、東洋大学は哲学に基づき原点に立ち返りつつ未来志向で向き合っていきます。

物事の本質について深く考え、社会の課題に取り組むという創立者 井上円了から受け継いできた「東洋大学の心」を実践することで未来を担う人材を育成します。そして地球規模の課題解決を目指して、考え、進み続けます。



明るい未来の実現に向けて、 「いま、何をなすべきか」

Highlights

新たな中期計画を軸に展開している教育・研究の主な取り組みを紹介します。

- | | |
|------------------|------|
| 01 「総合知」教育 | P.07 |
| 02 東洋大学いのち総合研究機構 | P.09 |
| 03 川越キャンパス リデザイン | P.11 |

4つの指針を新たに掲げ「東洋大学の心」を実践

「先進性(Innovation)」「多様性(Diversity)」「連携(Collaboration)」「誠実(Integrity)」の4つを指針に、「東洋大学の心」を実践します。



Topics

| 先進性 Innovation

- ・創立150周年に向けたあるべき姿のデザイン
- ・新学部設置を契機とした川越キャンパスの新たな展開
- ・情報やAIを正しく活用するためのプロンプト・エンジニアリング教育の展開
- ・生成AI活用による事務局業務の改革
- ・個々に寄り添って支援をするCareer Vision Quest
- ・学校法人の将来ビジョンを検討する総合学園将来構想委員会の設置
- ・将来的な人口減少に備えた牛久通信制中学校・高等学校設置の検討

| 連携 Collaboration

- ・産官学連携による研究拠点の形成と外部資金の獲得
- ・産業界と連携した教育の推進
- ・学生・生徒によるイノベーション創出支援
- ・大学院教育と学部教育の一体的運営による大学院の活性化
- ・教育の充実を目指した東洋大学と附属学校との連携強化
- ・地域連携プラットフォームに基づく東京都北区等との連携推進

| 多様性 Diversity

- ・いのち総合研究機構による重点研究推進プログラムへの働きかけ
- ・多様な学びの場を構築する白山キャンパスの新たな展開の検討
- ・一人ひとりの興味関心や将来像に対応する「総合知」教育の展開
- ・グローバル化を推進するための全世代語学教育の強化
- ・外国人留学生のための実践的なキャリア教育の展開
- ・リスキリング・リカレントの学びの場の提供

| 誠実 Integrity

- ・先進的な未来社会の創造に寄与するいのち総合研究機構の設置
- ・学校法人東洋大学SDGs 行動憲章に基づく全キャンパスでのSDGs 活動の展開
- ・大規模自然災害被災への支援・準備
- ・「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」や創立150周年に向けた長期計画を担保する人的資本経営の展開
- ・学生の支援や各事務局業務の高度化に対応できる事務局組織・制度の再構築
- ・「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」や創立150周年に向けた長期計画を担保する管理会計の高度化

「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」の詳細はWebサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/about/foundation/granddesign/>



TOYO GRAND DESIGN 2025-2029 Highlights

01

「総合知」教育

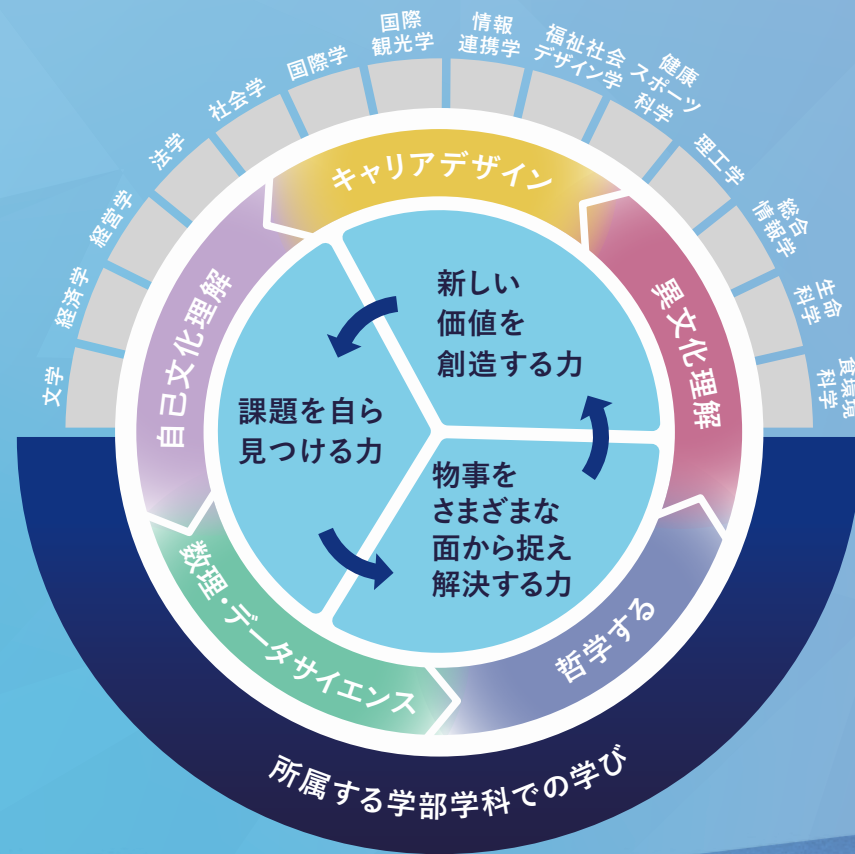
東洋大学では、2025年4月から「総合知」教育を開始しました。総合知とは、「物事を多面的に深く考え、自分と他者の持つ知を重ね合わせて、総合的に判断をする力をもたらし知」のこと。哲学を礎とする東洋大学では、本質に迫って深く考える力を重視しています。学生がその力を養うためには多様な知に出会う機会を広げることが不可欠だと考え、全学を挙げてカリキュラム改革に取り組みました。

14学部すべての学びを 柔軟に履修できる新カリキュラム

「総合知」教育では、総合大学として類例のない規模である全14学部・約600の専門科目を、学部やキャンパスの垣根を超えて履修可能。学生一人ひとりが最適化された自分だけの学びをデザインするカリキュラムです。学生自身の興味関心や将来像にあわせて、所属学部だけでなく他学部の科目も柔軟に選択し、自分だけの新たな「知の旅」を設計できます。

知をつなぎ価値を創る 「総合知」教育

専門領域の枠を超えた先の領域にある「知」に触れ、新たな気づきを得る。社会課題を見つけ、その解決策を考え主体的に行動を起こす。学生たちは「総合知」教育を通じて、試行錯誤を繰り返しながら、「知」をつなぎ、新たな価値を創造する力を身につけていきます。



一人ひとりに最適化した Learning Journey

▶「総合知」教育の3つのポイント

Point 1

東洋大学の“知”を集結したカリキュラムを編成。学部やキャンパスに関わらず、全14学部の学びを履修できます。

Point 2

自らの専門分野をベースに、興味関心や将来像にあわせて他分野の科目を履修し、学びを掛け合わせます。

Point 3

多彩な学びから選択することにより、自らの興味や可能性を発見できる機会が増えます。

学生3万人の主体的学びを支える AIを活用した履修支援アプリの導入

多彩な選択肢の中から自分の学びをデザインするために、「総合知アプリ」を学内で独自開発しました。AIが学生一人ひとりに合った学びを提案。学生自身も気づいていない自らの興味や可能性の発見を促し、主体的な学びをサポートし、多様な学問に導きます。

▶ 総合知アプリの主な機能

- 事例紹介**
総合知を活かしたキャリアを歩んでいる教員や卒業生等の事例を紹介し、学びへのモチベーションを高めます。
- 学問組み合わせ生成**
「総合知」教育の学びがどのようなキャリアにつながるのかを提案します。
- 科目検索**
条件に基づく科目の提案だけではなく、自身の専門分野との組み合わせで生まれる価値も提示します。
- AI履修情報アシスタント**
困りごとに関して、AIを用いて情報を検索できます。



「総合知」教育の詳細はWebサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/convergence-of-knowledge/>



東洋大学

いのち総合研究機構

重点研究推進プログラムのその先へ

総合力を駆使した研究の推進で

現代社会の抱えるさまざまな問題に挑む

複雑化した現代社会の課題に取り組むためには、一つの研究分野の知見だけではなく、多分野の研究者がチームとなって課題に対峙することが必要です。これまで分野横断的な研究を担ってきた「東洋大学重点研究推進プログラム」を起点として、「東洋大学いのち総合研究機構」を新たに設置しました。あらゆる「いのち」の調和を目指す研究を推進し、先進的な未来社会の創造に寄与します。

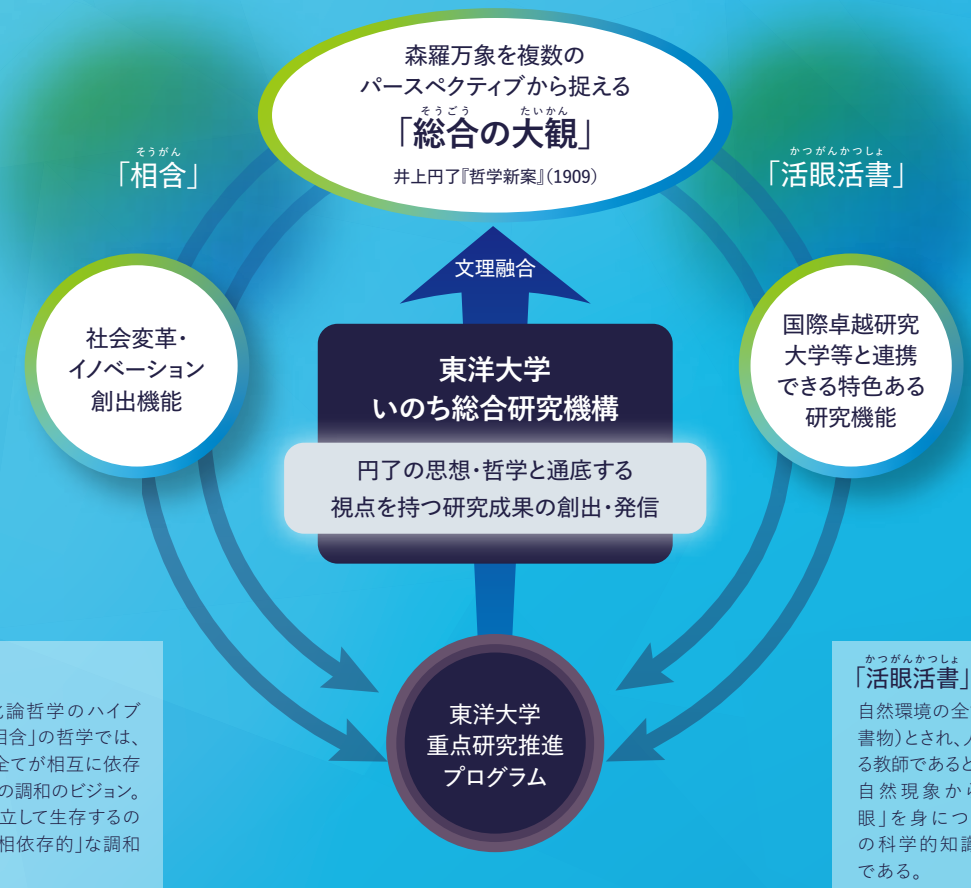
「いのち」が調和する未来社会の創造に貢献

東洋大学いのち総合研究機構では、哲学者である創業者 井上円了の思想を踏まえた研究成果の創出・発信を目指します。重点研究推進プログラム等を通じて複数の研究分野を融合・連携させ、あらゆる「いのち」の調和を目指す研究を推進。哲学的な視点を加えた研究成果により、「いのち」が豊かに継承される社会の実現に貢献します。



分野横断的研究を全学的にさらに支援

東洋大学はこれまで「重点研究推進プログラム」を中心に、多分野の研究者が一つのチームとなって、社会に貢献する研究を進めてきました。新たに設置された「東洋大学いのち総合研究機構」ではそれをさらに組織的に推進していきます。各プログラムの採択や予算配分、評価はもちろん、各プログラム間の調整や助言などに主体的に関与。けん引役として高度な研究活動の展開を促し、社会変革・イノベーションの創出を目指します。



「相含」
大乗仏教と進化論哲学のハイブリッドとしての「相含」の哲学では、無機物、有機物全てが相互に依存し合う「いのち」の調和のビジョン。個々の存在は孤立して生存するのではなく、「相互相依存的」な調和関係の内に在る。

「活眼活書」
自然環境の全ては「活書」(生きた書物)とされ、人間に多くを学ばせる教師であると位置付けられる。自然現象から学ぶための「活眼」を身につけるには、最先端の科学的知識の吸収が不可欠である。

創業者 井上円了が提唱した「総合の大観(さまざまな分野の知識や文化、宗教などを総合的に理解し、物事を多角的に見ること、そしてその中で共通する根源的な真理を捉えること)」の精神を、総合的な研究態勢で体现します。

いのち総合研究機構の起点となる重点研究推進プログラム

▶ 現行プロジェクト一覧

- ◆ 東洋大学のブランド力向上のための分野横断型アスリートサポート研究
- ◆ 生育のdiversityを生むメカニズムの解明とwell-beingな社会の実現に向けた支援体制の構築
- ◆ 未来を拓くバイオミメティクス
- ◆ 責任ある研究・技術開発に向けた多文化的ELSIの組織化
- ◆ 生活も仕事も充足して継続できる社会の実現に向けた、職業キャリアの実証研究
- ◆ 極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに!~TOYO SDGs Global 2024-2030-2037~
- ◆ 後継者の精神的健康とレジリエンス:
地域連携を活用した文理融合アプローチによるレジリエンス促進プログラム開発と事業承継支援
- ◆ 地域未利用資源の活用による地域・自然共生型脱炭素社会システムの設計
- ◆ 生成AI・データサイエンスの活用による教育・文学・芸術の革新に向けた研究
- ◆ 福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築
- ◆ レジリエントな社会からウェルビーイングな社会へーポストSDGsにおける持続的幸福の追求のためにー

「東洋大学いのち総合研究機構」の詳細は
Webサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/contents/research/iri/>



川越キャンパス
リデザイン

3学部がシームレスに協働

先端的・総合的な科学の追及に特化した

SMART GREEN CAMPUSへ

川越キャンパス(埼玉県)は、キャンパス全体を一つのコミュニティとしてリデザイン(再構築)を進め、新たな科学を追求する「こもれびの森のキャンパス」へと生まれ変わろうとしています。理工学部・総合情報学部、新たに開設される環境イノベーション学部の3学部がシームレスに協働し、新たな価値を創り出す“SMART GREEN CAMPUS”を構築します。



こもれびの森のキャンパス(イメージ)

▶ 新しい川越キャンパスの特徴

実感型研究・学習拠点

学生・教職員はもとより、地域市民や企業が集い、相互にコミュニケーションを図りながら、地域社会をはじめとするさまざまな社会課題の解決へ取り組む拠点を目指します。

DX(デジタルトランスフォーメーション)

高速ネットワークの整備をはじめ、IoTやビッグデータの運用・活用を可能にするDX指向の環境を整備。授業においてもICTを活用し、多彩な学習スタイルを可能にします。

オープンイノベーション

学内外の連携によるオープンイノベーションを促進。企業等との共同研究のほか、他キャンパスも含めた多学部での連携により、広範な社会問題へのソリューションを生み出します。

ゼロ・カーボン指向

環境配慮型の先端的な校舎を新設。ZEB(Net Zero Energy Building)、木材・CO₂吸収コンクリート等の使用(カーボンストック)、BEMS(建物内エネルギー管理システム)等を組み合わせます。

環境社会問題への多面的アプローチ

「環境イノベーション学部※」新設

持続可能なデジタル・グリーン社会を
導く、新たな学び

環境社会問題の解決に向けた新たなインパクトの創出を探る「環境イノベーション学部」を2027年4月に開設予定です。キャンパスの象徴である「こもれびの森」と調和した環境配慮型の新校舎や構内の豊かな自然環境を最大限に活用し、環境分野に関する総合的な学びを提供するとともに、ICTやビッグデータの活用と実体験を融合させたカリキュラムを展開します。



環境イノベーション学部棟(イメージ)

3年次から始まる2つの専門コース

環境イノベーション学部では、環境分野を中心に、多様な学問分野を複合的に学びます。環境・エネルギー問題に関する科学的知識を身につけると同時に、デジタル技術やデータサイエンスの活用に向けた基盤的な知識とスキルを獲得。その後、3年次以降は「環境創造コース」と「科学コミュニケーションコース」の2コースに分かれ、より専門的な知識・技術と解決力を身につけます。環境創造コースでは、環境社会問題の解決に寄与する企画・設計力を、科学コミュニケーションコースでは、科学的根拠に基づいて問題解決に向けて共創する力を養います。

※2025年6月現在設置構想中。学部名称は仮称であり、計画内容は変更となる可能性があります。

▶ 専門コースの特徴と概要

環境創造コース

環境社会問題の解決に向けて、先進的な環境創造技術の開発にとどまらず、デジタル・グリーン社会や、その時代に即した企画・設計力を培います。柔軟な解決策を導く能力を養い、理論的な学びを実効性のある知識とスキルへ昇華させるため、「こもれびの森」をはじめとするキャンパス全体を実験フィールドとした実践的な学習を展開します。

科学コミュニケーションコース

多面化する環境社会問題について、科学的根拠(データ)に基づく知識とともに、社会経済への相互影響に関する理解を深めます。科学技術の正しい知識とデータをもとに、キャンパス内外の多様なステークホルダーとの科学コミュニケーションを通じて、問題解決に向けた共創と社会実装に不可欠な能力を実践的に養います。

「川越キャンパスリデザイン・新学部設置」の詳細はWebサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/future-vision/>



Topics of TOYO Campus

学生の多様な学びを支えるため、東洋大学はキャンパス改革を推進しています。



白山キャンパス（東京都文京区）

受け継がれる思想、広がる学び 文系学部学びの中心地

白山キャンパスは、東洋大学のメインキャンパスであり、創立以来受け継がれてきた伝統と知の財産が息づいています。文学部、経済学部、法学部など文系7学部・7研究科が集結し、多様な学びや交流が生まれる知的拠点です。東京都心からのアクセスも良好で、講義棟や図書館、学生食堂、キャリア支援センターなど、学生の学びと成長をバックアップする施設が充実しています。また、創立者 井上円了の哲学と思索を伝える「井上円了記念博物館」も併設されており、歴史と革新が融合したキャンパス環境が特徴です。学生は学問とともに充実したキャンパスライフを送ることができます。



赤羽台キャンパス（東京都北区）

先端と現場の架け橋 社会とつながり、課題に挑む

赤羽台キャンパスは、情報、福祉、教育、デザイン、健康スポーツ、栄養など多岐にわたる分野が融合する都市型・地域密着型のキャンパスです。IoTをはじめとした先端技術を活用した教育・研究施設が充実しており、実践的なスキルや専門性を高める学びの場を提供しています。特に地域社会との連携を重視し、学生が地域のリアルな課題に取り組むことで、自ら考え行動する力を育む環境が整っています。多様な価値観や専門性が交差するこのキャンパスは、共創とチャレンジ精神を育て、次世代の課題解決に寄与できる人材の育成を目指しています。



朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市）

最新設備で実践知を育む 命と食の研究拠点

朝霞キャンパスは2024年に新校舎が完成した、命と食に関する新しい学びの拠点です。先端的な研究施設や、学生同士の交流・協働学習を促す多機能オープンスペース「パブリックレーン」など、創造性や主体性を引き出す環境や栄養や健康、生命に関わる専門分野を中心に、国家資格の取得を目指す学生をサポートする充実した設備と体制が特徴です。また、学生が中心となって企画・運営する学食「Umart! (ユーマート)」は学びの実践の場となっています。専門知識を深めるとともに、実社会で活躍できる力を育成するキャンパスです。



事業報告

Action&Impacts

東洋大学では、最先端の研究や産官学連携・社会貢献活動など、さまざまな事業を行っています。大学や社会の革新につながる、独創的で先進的な取り組みの詳細や成果をご紹介します。

Index

教育	P.15
研究	P.17
社会連携	P.19
スポーツ	P.20
附属学校・幼稚園	P.21

挑む力が、
確かな成果を生む

教育

現代社会を生き抜く知と考え方を身につけ
哲学を礎に、未来を切り拓く人材を育成

14学部51学科・専攻、大学院15研究科を擁する東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、哲学教育を基盤とした“知”を積み重ねてきました。充実した環境の中で興味の赴くまま専門的かつ横断的に学び、哲学教育によるものの見方・考え方を身につけることで、急速に変化する現代社会においても本質を見極め、未来を切り拓く人材へと成長します。



学生・教員の優れた研究成果が 国内外で高い評価を獲得

東洋大学の学生・教員が、さまざまな学会等で優れた研究成果を発表し、国内外で高い評価を受けています。情報連携学部のYadanar Linさんは、オープンソースの大規模言語モデル(LLM)と検索拡張生成(RAG)を活用したマルチモーダル AI プログラミングチューター Athenaを開発し、第21回IEEE TOWERS※にてTOWERS Best Awardを受賞しました。また、生命科学部生体医工学科の小河繁彦教授は、アメリカ・テキサス大学との国際共同研究の一環として実施した研究論文が、The American Physiological Societyによる厳選論文コレクション「APSselect」に選出されました。動脈硬化度の測定で使用している脈波伝播速度(PWV)による測定方法ではPWV法による測定値の変化があることを解明し、今後の測定手法の改良に貢献することが期待されます。

※ IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers



TOWERS Best Awardを受賞したYadanar Linさん(左)と指導教員のKhan教授(右)

進化したグローバル教育を より多くの学生に届ける

明治時代に視察のため3度の世界視察を行い、“旅する哲学者”と呼ばれた創立者 井上円了の理念を継承する東洋大学では、世界で学び、世界に学ぶための支援が充実しています。2024年度から、株式会社ECCと連携した学内英会話講座を無償で開講。2024年度の受講者は1,623名にのぼり、有償で実施していた前年度に比べて274.6%となりました。学生からは「英語で話すことが楽しくなった」などの前向きな声が多く寄せられています。また、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」の事業総括評価では、A評価を獲得。「エリートから中核人材に至るまで幅広く育成することで、全学のグローバル化構造をピラミッド型からダイヤモンド型へ変革を行ったことは、大規模総合私立大学としての強みを最大限に活用しており、高く評価できる」などのコメントがありました。



日常会話から英語資格試験対策まで、幅広いプログラムを用意

哲学する力を養う教育 学生食堂の運営やプロジェクトを通して実践

創立者 井上円了の精神を受け継ぎ、東洋大学では自らの哲学を持ち、主体的に考え行動する力を育む教育を重視しています。その実践の一つが、朝霞キャンパスの学生食堂「Umart!」。ここでは、食環境科学部の教員・学生が企画・運営に携わっています。食について専門的に学ぶ学生がコンセプトや店名の決定から、メニュー開発、広告制作、データ分析などに携わり、活発な議論を重ねながらより実践的な学びを深めています。また、経営学部・食環境科学部の学生による「酒粕プロジェクトU-go～酵母の贈り物～」を立ち上げ、東洋大学の産学協同ブランド酒「越生梅林エスティ」の醸造過程で生まれる酒粕を使った学食メニュー開発を行いました。市場調査や試食会などを重ね、他学部と協働することで、さらなる主体性や専門性を磨いています。



酒粕を取り入れた3種類のメニューを発表

「主活力」を身につける 多様な支援で目指すキャリアを実現

東洋大学では、「主体的に考えて活動する力＝主活力」の向上を軸に、キャリア支援・就職支援を行っています。2024年度はキャリア支援の一環として、沖縄県産業振興公社と連携し、株式会社博報堂の現役マーケティングを講師に招いた事業設計講座を開講。沖縄県内企業のECサイト構築や販路拡大といったリアルな課題に挑戦し、ビジネスの基礎を学びながら企業の課題解決に貢献する経験を積みました。また、人気企業や各業界のリーディングカンパニーへの就職を目指す学生に対して、早期より対策を始める「UP講座」も実施。1年次から3年次までにONE UP、TWO UP、THREE UP講座と段階を踏み、自己分析から業界研究まで事前に基礎を固めることで、自信をもって就職活動に臨める土台を築きます。



事業設計講座では、企業担当者を唸らせるアイデアを学生が考案

社会とつながる実践的な学びで 教育の質向上を目指す

東洋大学は、各学部・研究科が教育の質をさらに高めるため、「教育力強化支援事業」を通して、意欲的で革新的なプロジェクトを企画、実施しています。社会学部メディアコミュニケーション学科の『「産・官・学」連携による最先端メディア体感教育プロジェクト』では、学生がメタバースを活用したCM動画制作や映像制作、雑誌編集などに挑戦。次世代ビジネスモデルの学習とアクティブラーニングを取り入れた実践教育を行っています。また、国際観光学部の「国際観光プランニングコンテスト」では、学生がゼミ単位でチームを組み、専門分野に基づいた観光プランの立案を行います。観光プランニング能力はもちろん、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、即戦力となるスキルや知識を身につけています。



予選を勝ち抜いた8チームがプレゼンテーションを実施

多くの人々に教育への門戸を開き 多様な博士人材を育成

東洋大学では、大学院教育の充実を図り、多様なバックグラウンドを持つ人々に学びの機会を広げています。入学者の学修歴が幅広いことを踏まえ、基礎的な知識の補完を行うリメディアル教育を提供するため、「大学院生の学部科目履修制度導入のためのガイドライン」を制定し、2025年度より制度の運用を開始しました。また、科学技術振興機構による「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)令和6年度新規プロジェクト」に、本学の「健康と人間の安全保障のための哲学を持つ多様な挑戦的研究者育成プロジェクト」が採択されました。既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援し、卓越した博士人材の育成に注力しています。採用された大学院生へは、研究費と生活費の支給により、研究に専念できる環境を整えるとともに、キャリア開発・育成コンテンツの提供を始めとする多様な支援を行っています。



「健康と人間の安全保障のための哲学を持つ多様な挑戦的研究者育成プロジェクト」に採択された若手研究者

研究

東洋大学ならではの特色ある研究を推進し
社会課題の解決やSDGsの達成へとつなげる

東洋大学では、総合大学の特性を活かした文理融合型プロジェクトや、民間企業と連携したユニークな製品開発など、多様な研究を行っています。独自の研究をさらに深化させ、東洋大学の研究ブランド力を向上させるとともに、研究成果を還元して持続可能な社会の実現にも貢献します。

東洋大学の
研究について



<https://www.toyo.ac.jp/research/>

文理融合型の独創的な研究を推進し 世界レベルの大学を目指す「東洋大学重点研究推進プログラム」

超スマート社会の到来を見据え、先端的な研究を促進するべく、2018年に創設された「東洋大学重点研究推進プログラム」。世界水準の大学へと発展することを目標として、独自の大型研究助成金を用意し、独創的な研究プロジェクトを推進しています。11のプロジェクトの中から、3つの事例を紹介します。

事例1

最先端の情報技術で豊かな暮らしを実現する

「日常生活を豊かにするためのデジタルトランスフォーメーション(DX)の研究(2022年度～2024年度)」では、最新の機械学習技術を自然言語処理やUX(ユーザーエクスペリエンス)などの分野に応用することで、生活の質向上と情報通信技術の発展に貢献する手法を検討しました。自然言語処理分野では「大規模言語モデルによる現代短歌の評価」を行い、従来の機械学習モデルを超える性能をもつ新しい手法を構築しました。その他にも、幅広い分野の発展に貢献する多くの研究成果を挙げました。



事例2

アスリートを支える分野横断型アプローチ

「東洋大学のブランド力向上のための分野横断型アスリートサポート研究(2023年度～2025年度)」では、アスリートが最大限のパフォーマンスを発揮するための、フィジカルやコンディショニングサポートはもちろん、メンタル面やキャリア支援なども含めた総合的なサポート体制の構築を目指しています。総合大学のメリットを活かし、自然科学と人文・社会科学系を融合した分野横断的なアプローチで、東洋大学ならではのアスリート支援の在り方を探究します。



事例3

SDGsの包摂的実現に挑む分野連携研究

「レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究(2022年度～2024年度)」では、「レジリエント(しなやかで強い)」をキーワードに、実践的な活動を伴った研究(例えば、ソーラーランタンを用いた小規模人道支援や月経のある人のウェルビーイングを前進させる「MeW(Menstrual Wellbeing by/in Social Design)」プロジェクトなど)を行い、地域づくりやジェンダー・福祉などのさまざまな分野で研究成果を挙げました。また、災害等の危機への耐性を持つレジリエントな社会を実現させることを目指し、企業やNPO等との共同研究を実施しました。



生物の特性や進化をヒントに新たな技術を生み出す 「バイオメテックス」を産業界に活用

「東洋大学重点研究推進プログラム」の一環として、生物の持つ優れた構造や機能などから新たな技術を生み出す「バイオメテックス」を活用したものづくりに取り組んでいます。その先端的な研究の一つが、株式会社セブン銀行との産学連携による次世代ATMの技術開発に向けた共同研究です。ATMをより快適に利用できるよう、キズの目立たない素材や清掃性の高い素材を開発。また、ATMに付属するスピーカーをより指向性の高い構造へ進化させ、どのような設置環境でもプライバシーを確保しやすい音響設計を実現しようとしています。持続可能なものづくりの要素を取り入れながら、利用者にとって安心して快適な空間づくりとさらなるUX(ユーザーエクスペリエンス)の向上につなげていきます。



さまざまなモノに活用されているバイオメテックスの技術

独自の研究成果を活かして ユニークな製品として社会に発信

研究から生まれた知見を社会に還元すべく、ユニークな製品開発にも取り組んでいます。例えば、ハッサクなどの果皮に多く含まれる成分「オーラプテン」が熱中症対策に効果的であることを、東洋大学が世界で初めて発見し、特許を取得。この特許成分を多く含んだ商品開発を目指しており、今後もさまざまな展開が期待されています。また、花の酵母を活用し、毎年異なる酵母で醸造する日本酒開発プロジェクトも進行中。2025年2月には、川越キャンパスに自生するアジサイと、連携する佐藤酒造店敷地内で採取した小梅の酵母を使用した「越生梅林 エスティNo.3」と「うめのはな-Koume-」の2種を製品化・販売しました。



製品化された2種類の日本酒「越生梅林 エスティ No.3」(左)と「うめのはな-Koume-」(右)

研究成果等を活用して社会を変える ベンチャー企業やスタートアップを支援

東洋大学では、研究成果を社会課題の解決につなげる取り組みとして、ベンチャー企業の創出を推進しています。2024年度には、大学の資源を活かして設立された企業を「東洋大学発ベンチャー」として認定する新制度を制定。初年度は、熱中症の予防や治療に効果があるとされるオーラプテンを含む食材の製造・販売を行う株式会社和環と、スポーツで使用する滑り止めの開発・販売等を行う株式会社Refstの2社を認定しました。また、創立者 井上円了の「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」精神を範とした動機や事業計画による起業に対しさまざまなサポートを行う、「他者のために奮闘するスタートアップ支援」も実施しています。この取り組みは東京都の「大学発スタートアップ支援事業」に採択されており、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」の活用と併せて、本学の研究成果やアイデアによるスタートアップを支援しています。



株式会社Refst代表取締役の新谷昂助教(左)と株式会社和環の代表取締役である土屋典子氏(右)

研究機器の共同利用により 新たな知の創出に期待

東洋大学は、学内外の研究者や研究機関との連携をさらに強化することを目的として、「朝霞研究機器共同利用センター」を設置しました。朝霞キャンパスに設置された約250の研究機器の共同利用が可能になり、研究資源の有効活用と研究活動の活性化が期待されています。本センターの活用により、分野横断的な共同研究や企業・研究機関からの受託研究のさらなる推進が見込まれるほか、専門スタッフの配置によってサポート体制も充実。設備投資の効率化を図りながら、研究環境の向上を目指します。2025年度内を目途に利用環境の段階的な整備が進められており、今後、学内外の研究者が分野を超えてつながり、新たな知の創出や社会課題の解決につながる研究の展開が期待されます。



朝霞キャンパスに設置されているさまざまな研究機器

社会連携

大学で培われた教育・研究成果を社会へ
地域とともに歩み、活性化に貢献



「余資なく、優暇なき者に教育を開放する」という理念のもと、社会教育や生涯学習の広範な普及を目指した創立者 井上円了。その意志を受け継ぐ東洋大学も、創立当初から現在まで地域社会の発展や生涯学習の普及に貢献してきました。持続可能な社会の実現に向けて、教育・研究の成果を地域社会に還元します。

能登半島地震の復興支援をはじめ ボランティア活動で社会に貢献

東洋大学は、人的・知的資源を必要とする地域社会・国際社会に支援を届けるべく、学生によるボランティア活動を推進しています。2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、3月から学生や教職員によるボランティア活動を継続的に実施。中でも、2024年8月4日から9月3日まで行われた「夏季能登半島地震ボランティア」には111名の学生・教職員が参加し、石川県輪島市、珠洲市、羽咋郡志賀町を中心に5つのエリア（コース）に分かれ、全20クール（1クール4泊5日）にわたる活動を展開しました。現地のボランティア団体と連携しながら、がれきの運搬や支援物資の仕分け、学童保育、祭の準備などさまざまな活動に尽力。被災地の方々から感謝のメッセージが多数寄せられました。



がれきや資材の運搬、災害ゴミの分別などさまざまな活動を実施

すべての人に「開かれた大学」へ 生涯を通じて学べるリカレント教育が充実

東洋大学では、創立者 井上円了の掲げた「余資なく、優暇なき者に教育を開放する」という理念を引き継ぎ、すべての人に学びを届ける「開かれた大学」づくりを目指し、充実したリカレント教育を提供しています。公開講座では、14学部約800名の現役教員をはじめとする東洋大学の知を結集し、歴史・社会・医療など多彩なテーマを開講しています。2024年度から始まった「東洋大学フィロソフィア アカデミー」は哲学を基盤に、自分と社会を見つめ直す新たな学びの場です。グループワークや教室外でのフィールドワークなどを通して、自らの可能性を拓く探究型の学びを提供します。2024年度は全41講座を合計1,185名が受講。「有意義な時間だった」「また受講したい」といった声が集まりました。



東洋大学フィロソフィア アカデミーでは、他者との交流や新しい知識の習得が可能

学んだ知識を実践で活かし 地域活性化に貢献する

東洋大学は「知」の拠点として、ゼミや研究室での活動を通して社会課題の解決に貢献しています。その取り組みの一つが、コミュニティ活動拠点「Hintmation」での活動です。本学赤羽台キャンパスの近隣にある団地、ヌーヴェル赤羽台では、世代間交流や地域活動の減少が課題となっています。福祉社会デザイン学部の学生が「Hintmation」を通して交流促進イベントなどを実施し、アカデミックな視点から活性化を目指します。また、経営学部蜂巣ゼミと食環境科学部露久保研究室は、栃木県のJAなすのと連携し、学生食堂で「那須和牛すき焼き」を販売。学生がメニュー開発、那須野地区生産者のヒアリング、食材調達やマーケティングを担いました。合計450食を販売し、JAなすのブランドの認知向上や那須地区の地域活性化に貢献しました。



「Hintmation」を通じた交流促進イベントの様子



那須和牛の生産者を訪問し、インタビューを実施

スポーツ

スポーツを哲学し
人と社会と世界をむすぶ人材を育成



東洋大学では、学部やキャンパスの垣根を越えて、すべての学生が参加可能なムーブメントを構築すべく、スポーツを通じた人材育成や社会貢献活動を実施しています。スポーツには「人」「社会」「世界」を結びつける力が備わっています。哲学の精神を通じてスポーツに向き合い、社会に貢献できる人材を育成します。

パリ五輪で金・銀メダルを含む大活躍 過去最大の16名が出場

2024年夏に開催されたパリオリンピック・パラリンピックにおいて、東洋大学からは在学生6名、卒業生10名の合計16名が出場しました。中でも、鏡優翔選手がレスリング女子76kg級で金メダルを獲得。また、松下知之選手は競泳男子400m個人メドレーで銀メダルを獲得しました。その他にも複数の選手が陸上競技やパラ水泳、パラ馬術などで入賞を果たし、在学生・卒業生が世界の舞台でその実力を発揮。さらに、6名が監督やコーチとして大会に帯同するなど、大学関係者の存在感が光る大会となりました。



オリンピックでメダルを獲得した鏡優翔選手(左)と松下知之選手(右)

全国大会での優勝など 多くの運動部が輝かしい成果を残す

スポーツを通じた人材育成を掲げる東洋大学では、運動部がさまざまな分野で目覚ましい成果を挙げています。サッカー部男子部門は、2024年度第73回全日本大学サッカー選手権大会に出場し、初優勝を果たしました。フェアプレー賞も受賞し、決勝で得点を決めた新井悠太選手がMVPに選ばれるなど、チーム全体での活躍が光りました。また、アイススケート部ホッケー部門はエイワ杯2024年度関東大学アイスホッケーリーグ戦において11勝1敗の好成績をおさめ、2年ぶり11回目の優勝を達成。大久保雅斗選手が最優秀選手に選ばれたほか、複数の選手がベストシックスや最多ポイント賞などに名を連ねました。



大学日本一に輝いたサッカー部(男子部門)

運動部が小学生向け教室を開催 スポーツの力で地域とつながる

東洋大学ではスポーツを通じた社会貢献・地域連携活動に積極的に取り組んでいます。硬式野球部は、埼玉県川越市・鶴ヶ島市の小学生を対象に野球教室「ベースボールクリニック in 川越」を開催。プロ野球ドラフト会議で指名を受けた一條力真選手、岩崎峻典選手も参加し、285名の小学生がピッチングやバッティングの練習を行いました。また、サッカー部は朝霞キャンパス周辺の小学生約60名を対象にサッカー教室「TOYO UNIV SOCCER CLINIC in ASAKA」を実施。ドリブルやシュートの練習、ミニゲームなどを行い、最後にはサッカー部男子部門の公式戦にてエスコートキッズも体験しました。参加した親子からの評価は高く、大学スポーツへの関心を深める機会になりました。



ピッチングのデモンストレーションを実施



一人ひとりに丁寧な指導を実施

附属学校・幼稚園

総合学園全体で連携した教育により
未来を担う若者を育成

東洋大学では、3つの附属中学校・高等学校と1つの附属幼稚園を設置しています。総合学園としてのメリットを最大限に活かし、大学と附属校園が連携して、グローバル教育や理数教育などの教育活動を展開。未来を担う若者の探究心を育てます。



東洋大学附属姫路中学校・高等学校

東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を継承し、考える力の育成と校訓「自立・友情・英知」を基礎に据えた教育を行っています。その中心となるのが、「哲学」、「グローバル」、「探究」の3つの柱からなる「キャリア・フロンティア」で、「確かな学力」と「豊かな人間力」を育成しています。また、物事の本質を追究するための「考える力」、国際社会で求められる「自分の意見をはっきりと持ち、発信できる力」、社会人に必要な自立心を培い「自らの進路を自分で考え、選択できる力」を養い、未来を担うグローバル人材の輩出を目指しています。附属姫路中学校は、姫路市内初の男女共学中高一貫校として2014年に開校しました。附属姫路高等学校は、2022年に制服やコース制をリニューアル、2023年に創立60周年を迎え、さらなる躍進に向けてさまざまな取り組みに挑戦しています。



Topics

2024年9月30日から10月5日の6日間、姉妹校であるオーストラリアのブライトン・セカンダリー・スクールから、生徒24名と教員3名が来校。授業や部活動への参加を通して本校生徒との交流を深めました。

また、本校野球部が第97回選抜高等学校野球大会に出場。長崎の壱岐高等学校との初戦に勝利し、ベスト16入りを果たしました。さらに、初戦32校の応援を対象とした応援団賞では優秀賞にも選ばれました。



3年ぶり9回目の選抜高等学校野球大会出場

東洋大学附属牛久中学校・高等学校

2021年4月に文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク参加校」に認定されました。国際化を推進し続ける東洋大学との連携も活かし、グローバル人材育成教育を進めています。海外語学研修や国際交流活動、ディベートなどの多彩な教育内容に加えて、「グローバル探究」（哲学・国際理解・教養・課題研究・キャリアから構成されるオリジナル教科）を通して、世界の人々と共生できる力を育成します。高等学校には、生徒の個性に合わせた5つのコース（特別進学・グローバル・進学・スポーツサイエンス・中高一貫）を設置。志望する進路に応じた最適なカリキュラムのもと、基礎から応用まで幅広い学力の定着を目指します。附属中学校から内部進学した中高一貫コースの生徒は、教育課程を早期修了し、国公立大学や難関私立大学への進学に備えます。



Topics

中学2年生・3年生を対象に、保護者を講師としてお招きして仕事について学ぶキャリアアップ講座を実施しました。生徒たちは仕事内容に加え、中学生のうちに身につけておくべきことについても理解を深めました。

また、「SDGs QUEST みらい甲子園茨城県大会」に高校の生徒が出場。「牛久シャッター」から無償提供されたワインパミスを堆肥として大豆を栽培し、たんぱく質危機の解決に役立てるアイデアがSDGs QUEST アクションアイデア優秀賞（2位）を受賞しました。



6人の生徒がチームとなって「SDGs QUEST みらい甲子園 茨城県大会」に出場

東洋大学京北中学高等学校

大学附属の男女共学・中高一貫教育校として、附属校のメリットを最大限に活かしながら国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。「より良く生きる」をテーマとした哲学教育（生き方教育）、国際社会で活躍できる力を身につける国際教育、そして自己の人生を意欲的に創造するキャリア教育を3本の柱として実践しています。数学・理科・情報に対する生徒たちの興味・関心を高めることを目的とした「KSST（京北スーパーサイエンスチーム）」の活動も推進しています。東洋大学の理数分野に関わる学部・学科との連携プログラムである「未来の科学者育成プロジェクト」への参加や、理化学研究所、国立遺伝学研究所見学などを通じて、理科教育にも強い学校の実現を目指します。



Topics

東洋大学の教授陣から直接指導を受けながら研究活動に取り組める「未来の科学者育成プロジェクト」を実施しています。2024年度研究報告会では各チームが研究成果を発表し、他の生徒たちに知識を共有しました。

また、国際的な視点から理数分野への理解を深めるため、ハワイ島でのフィールドワークも実施。ハワイ火山国立公園などを訪問し、特徴的な地形や生態系を実地で学ぶ貴重な体験となりました。



ハワイ火山国立公園でトレッキングを実施

東洋大学附属京北幼稚園

本園は、創立者 井上円了が生涯教育の中でも特に重視した「人格の基礎を形成する幼稚園教育」の理念に基づき、1905年に創設されました。以来、本駒込の地で120年にわたり教育活動を重ね、3,000名を超える子どもたちを見守ってきました。2024年度より園名を「東洋大学附属京北幼稚園」に変更し、新たなスタートを切りました。東洋大学では、保育者を養成する学科をはじめ幼児教育に関わる領域の研究が進んでおり、附属園としてこれらの知見や教育資源を積極的に活用し、魅力ある幼児教育の環境づくりを推進しています。また、教育方針「5つの柱」-「1. お互いを大切にし、健やかに生きる力を育む」「2. 遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む」「3. よく考え、自ら行動する力を育む」「4. 豊かな環境の中で創造性や発想力を育む」「5. 多様性に出会い、共に生きる力を育む」を基本に、人間形成の基礎をつくる大切な時期にある子どもたちの多様な力を育みます。



Topics

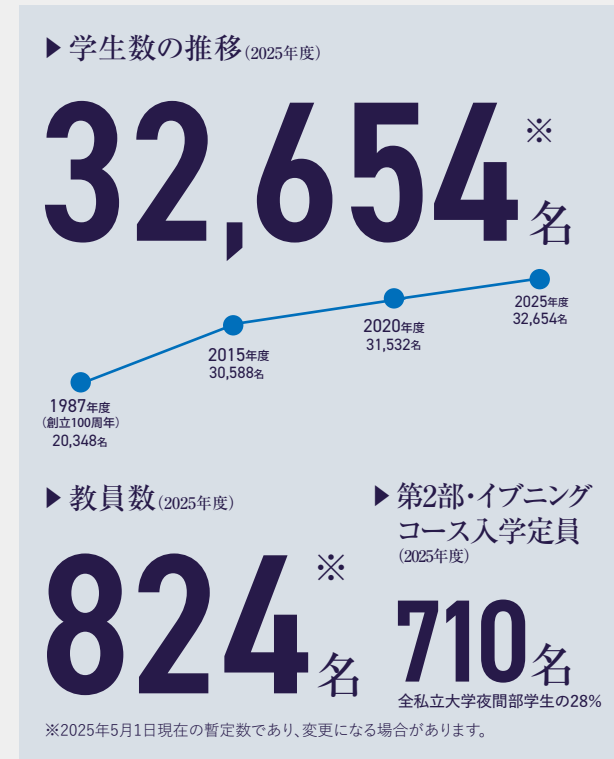
学校法人東洋大学のグローバル教育推進の一貫として、園においても幼児英語教育の質の向上を図る取り組みをしています。これまで続けてきた正課英語教育に加え、2024年度から本園独自の幼児英語プログラム「えいごであそぼう」がスタートしました。幼児が五感を通して、主体的・体験的に英語を学び、多様な文化や習慣を理解し尊重する基盤を形成するプログラムです。夏休み中の「えいごであそぼう」にも多くの子どもたちが参加し、プレイフルにアクティブに、英語でお互いを認め合い、勇気づける関わりを楽しみました。



毎回さまざまなアクティビティを実施

数字で見る東洋大学

最新のデータをダイジェストでとりまとめています。



基礎データ

■在籍学生数 (2025年5月1日現在暫定数)

学部 (第1部)				学部 (第2部)			
学部	男性	女性	合計	学部	男性	女性	合計
文学部	1,738	1,925	3,663	文学部	317	212	529
経済学部	1,975	763	2,738	経済学部	522	134	656
経営学部	1,849	1,087	2,936	経営学部	334	166	500
法学部	1,383	794	2,177	法学部	354	150	504
社会学部	1,074	1,736	2,810	社会学部	299	262	561
理工学部	2,663	594	3,257	第2部合計	1,826	924	2,750
国際学部	763	965	1,728	第1部・第2部合計	17,956	13,538	31,494
国際観光学部	491	1,030	1,521				
生命科学部	734	490	1,224				
ライフデザイン学部	202	399	601				
総合情報学部	830	270	1,100				
食環境科学部	417	723	1,140				
情報連携学部	1,106	214	1,320				
福祉社会デザイン学部	404	1,090	1,494				
健康スポーツ科学部	501	534	1,035				
第1部合計	16,130	12,614	28,744				

通信教育課程			
	男性	女性	合計
合計	7	14	21

■専任教員数 (2025年5月1日現在)

白山キャンパス	学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
	文学部	59	24	4	8	95	0	95
	経済学部	39	23	5	3	70	0	70
	経営学部	35	25	7	3	70	0	70
	法学部	34	16	6	3	59	0	59
	社会学部	43	16	6	5	70	0	70
	国際学部	21	11	5	3	40	0	40
	国際観光学部	18	7	9	2	36	0	36
	白山キャンパス合計	249	122	42	27	440	0	440
川越キャンパス	学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
	理工学部	52	21	1	4	78	0	78
	総合情報学部	17	10	3	3	33	0	33
	川越キャンパス合計	69	31	4	7	111	0	111

附属学校教員数

学校名	教諭	助教諭	講師	助手	合計
附属姫路中学校	16	0	0	0	16
附属姫路高等学校	75	0	0	0	75
附属牛久中学校	14	0	1	0	15
附属牛久高等学校	80	1	2	0	83

■事務職員数 (2025年5月1日現在)

大学

身分	職員数
参事	14
副参事	19
主事	64
主事補	88
書記	214
事務雇員	10
特任職員	18
専任職員等小計	427
常勤嘱託	86
特別嘱託	11
嘱託小計	97
合計	524

附属学校

学校名	参事	副参事	主事	主事補	書記	事務雇員	特任職員	常勤嘱託	特別嘱託	職員合計
附属姫路中学校・高等学校	0	0	0	1	3	0	0	10	0	14
附属牛久中学校・高等学校	0	0	1	1	2	1	0	1	0	6
東洋大学京北中学高等学校	0	0	1	2	1	0	1	3	1	9
合計	0	0	2	4	6	1	1	14	1	29

各種データはWebサイトからご覧いただけます。



大学院

研究科	男性	女性	合計
文学研究科	52	68	120
社会学研究科	29	35	64
法学研究科	21	12	33
経営学研究科	55	18	73
理工学研究科	208	28	236
経済学研究科	72	35	107
国際学研究科	31	48	79
国際観光学研究科	15	28	43
国際地域学研究科	1	0	1
生命科学研究科	93	48	141
社会福祉学研究科	17	22	39
ライフデザイン学研究科	21	34	55
福祉社会デザイン研究科	1	0	1
総合情報学研究科	49	26	75
食環境科学研究科	9	7	16
情報連携学研究科	19	4	23
健康スポーツ科学研究科	35	19	54
合計	728	432	1,160

附属学校等・幼稚園

学校名	男性	女性	合計
附属姫路高等学校	705	472	1,177
附属牛久高等学校	922	838	1,760
東洋大学京北高等学校	460	453	913
高等学校合計	2,087	1,763	3,850
附属姫路中学校	142	116	258
附属牛久中学校	93	100	193
東洋大学京北中学校	183	214	397
中学校合計	418	430	848
附属京北幼稚園	34	35	69

キャンパス別学生数

(学部第1部・第2部、大学院)

キャンパス	男性	女性	合計
白山キャンパス	11,304	9,376	20,680
川越キャンパス	3,560	863	4,423
朝霞キャンパス	1,418	1,288	2,706
赤羽台キャンパス	2,402	2,443	4,845
合計	18,684	13,970	32,654

学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
生命科学部	30	10	3	3	46	0	46
食環境科学部	21	13	3	3	40	5	45
朝霞キャンパス合計	51	23	6	6	86	5	91

学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
情報連携学部	18	9	4	8	39	0	39
福祉社会デザイン学部	29	19	2	15	65	3	68
健康スポーツ科学部	16	15	6	12	49	2	51
赤羽台キャンパス合計	63	43	12	35	153	5	158

所属	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
大学院	5	0	0	0	5	0	5
IR室	1	0	0	0	1	0	1
国際教育センター	0	2	15	0	17	0	17
情報連携学術実業連携機構	1	0	0	0	1	0	1

学校名	教諭	助教諭	講師	助手	合計
東洋大学京北中学校	26	0	0	1	27
東洋大学京北高等学校	50	0	0	1	51
附属京北幼稚園	8	0	0	0	8
合計	269	1	3	2	275

各種データはWebサイトからもご覧いただけます。





入試データ (2025 年度入試)

共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試(第1部)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	1,609	335
	東洋思想文化学科	876	224
	日本文学文化学科	2,542	592
	英米文学科	2,556	732
	史学科	3,294	679
	教育学科(人間発達専攻)	1,475	491
	教育学科(初等教育専攻)	1,319	287
文学部合計	国際文化コミュニケーション学科	1,539	378
		15,210	3,718
経済学部	経済学科	7,409	1,592
	国際経済学科	2,790	685
	総合政策学科	2,879	572
経済学部合計		13,078	2,849
経営学部	経営学科	7,472	1,508
	マーケティング学科	4,145	659
	会計ファイナンス学科	2,991	581
経営学部合計		14,608	2,748
法学部	法律学科	5,224	1,327
	企業法学科	3,611	871
法学部合計		8,835	2,198
社会学部	社会学科	4,332	956
	国際社会学科	2,479	726
	メディアコミュニケーション学科	3,140	691
	社会心理学科	2,988	653
社会学部合計		12,939	3,026
国際学部	グローバル・イノベーション学科	1,585	282
	国際地域学科(国際地域専攻)	2,488	684
国際学部合計		4,073	966
国際観光学部	国際観光学科	4,343	770
国際観光学部合計		4,343	770
情報連携学部	情報連携学科	4,022	1,277
情報連携学部合計		4,022	1,277
福祉社会 デザイン学部	社会福祉学科	2,026	561
	子ども支援学科	719	209
	人間環境デザイン学科	1,667	402
福祉社会デザイン学部合計		4,412	1,172
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	3,415	560
	栄養科学科	664	146
健康スポーツ科学部合計		4,079	706
理工学部	機械工学科	2,686	958
	電気電子情報工学科	2,541	834
	応用化学科	2,711	827
	都市環境デザイン学科	1,837	681
	建築学科	2,362	645
理工学部合計		12,137	3,945
総合情報学部	総合情報学科(メディア情報専攻)	1,375	322
	総合情報学科(心理・スポーツ情報専攻)	492	126
	総合情報学科(システム情報専攻)	1,312	214
総合情報学部合計		3,179	662
生命科学部	生命科学科	3,252	359
	生体医工学科	849	306
	生物資源学科	1,800	448
		5,901	1,113
食環境科学部	食環境科学科	1,445	412
	フードデータサイエンス学科	1,143	227
	健康栄養学科	1,081	302
食環境科学部合計		3,669	941
第1部合計		110,485	26,091

共通テスト利用入試・一般入試(第2部・イブニングコース)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	東洋思想文化学科	145	90
	日本文学文化学科	210	103
	教育学科	159	111
第2部文学部合計		514	304
経済学部	経済学科	620	380
第2部経済学部合計		620	380
経営学部	経営学科	570	181
第2部経営学部合計		570	181
法学部	法律学科	647	320
第2部法学部合計		647	320
社会学部	社会学科	653	343
第2部社会学部合計		653	343
国際学部	国際地域学科(地域総合専攻)	273	204
国際学部(イブニングコース)合計		273	204
第2部イブニングコース合計		3,277	1,732
総合計		113,762	27,823

推薦入試(AO型推薦/自己推薦/学校推薦/[独立自活]支援推薦) ※[基礎学力テスト型]入試含む

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
第1部	哲学科	319	73
	東洋思想文化学科	165	71
	日本文学文化学科	541	98
	英米文学科	438	104
	史学科	566	108
	教育学科(人間発達専攻)	289	81
	教育学科(初等教育専攻)	222	37
	国際文化コミュニケーション学科	516	84
	経済学科	1,320	273
	国際経済学科	417	134
	総合政策学科	627	145
	経営学科	1,515	197
	マーケティング学科	1,167	147
	会計ファイナンス学科	645	167
	法律学科	969	168
	企業法学科	608	122
	社会学科	1,024	170
	国際社会学科	544	151
	メディアコミュニケーション学科	620	124
	社会心理学科	778	129
第2部 イブニングコース	グローバル・イノベーション学科	423	49
	国際地域学科(国際地域専攻)	628	132
	国際観光学科	1,431	203
	情報連携学科	393	149
	社会福祉学科	434	235
	子ども支援学科	182	68
	人間環境デザイン学科	392	134
	健康スポーツ科学科	764	137
	栄養科学科	204	48
	機械工学科	253	123
	電気電子情報工学科	250	94
	応用化学科	210	131
	都市環境デザイン学科	155	63
	建築学科	262	120
	総合情報学科(メディア情報専攻)	280	60
	総合情報学科(心理・スポーツ情報専攻)	126	36
	総合情報学科(システム情報専攻)	198	69
	生命科学科	338	57
	生体医工学科	96	53
	生物資源学科	152	82
食環境科学部	食環境科学科	188	66
	フードデータサイエンス学科	135	38
	健康栄養学科	231	61
第1部合計		21,015	4,791
文学部	東洋思想文化学科	14	12
	日本文学文化学科	27	21
	教育学科	22	15
	経済学科	71	50
	経営学科	84	57
	法学部	86	62
	社会学部	69	55
	国際学部	20	14
	第2部イブニングコース合計	393	286
	合計	21,408	5,077

大学院 博士前期 修士課程	研究科	志願者数		合格者数	
		秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
大学院 博士前期 修士課程	文学研究科		103		39
	社会学研究科		119		17
	法学研究科		39		23
	経営学研究科	0	173	0	41
	理工学研究科	4	115	4	105
	経済学研究科	15	110	14	52
	国際学研究科	24	46	17	22
	国際観光学研究科	11	53	2	14
	社会福祉学研究科		42		13
	生命科学研究科	3	64	3	59
	ライフデザイン学研究科		16		10
	総合情報学研究科	2	31	2	27
	食環境科学研究科	0	9	0	7
	情報連携学研究科	2	20	2	7
	健康スポーツ科学研究科		27		17
合計		61	967	44	453

大学院 博士後期 課程	研究科	志願者数		合格者数	
		秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
大学院 博士後期 課程	文学研究科		2		2
	社会学研究科		4		3
	法学研究科		1		0
	経営学研究科	0	2	0	1
	理工学研究科	2	1	2	1
	経済学研究科		1		1
	国際学研究科	2	3	2	2
	国際観光学研究科	0	1	0	1
	社会福祉学研究科		5		3
	生命科学研究科	1	4	1	4
	ライフデザイン学研究科		6		6
	総合情報学研究科	2	0	2	0
	食環境科学研究科	0	1	0	1
	情報連携学研究科	0	0	0	0
	健康スポーツ科学研究科		5		5
合計		7	36	7	30

学校名	志願者数	合格者数
附属姫路中学校	284	154
附属姫路高等学校	3,828	3,817
附属牛久中学校	275	216
附属牛久高等学校	1,822	1,667
東洋大学京北中学校	1,014	268
東洋大学京北高等学校	934	482
附属京北幼稚園	23	23



国際交流データ

留学生数・留学者数

派遣留学者数(中途帰国者を含む)

プログラム名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
交換留学(派遣)	12	70	145	148	156
認定留学	4	2			
協定校語学留学	36	0	108	103	57
語学セミナー*	57	153	155	179	196
合計	109	225	408	430	409

※国際教育センター主催のプログラムのみを対象

※2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施

※2022年度は実渡航とオンラインの両参加人数を含む

大学間海外協定先等一覧(2025年3月31日現在)



2025年3月31日現在

大学間	43カ国・地域・273協定
部局間等	33カ国・地域・103協定

出身国別留学者数(2025年5月1日現在)

アメリカ	イタリア	インド	インドネシア	ウクライナ	ウズベキスタン	エスワティニ王国	カタール
学部合計2 大学院合計2 総合計4	学部合計1 総合計1	学部合計1 大学院合計2 総合計3	学部合計6 大学院合計4 総合計10	大学院合計1 総合計1	学部合計2 総合計2	大学院合計1 総合計1	学部合計1 総合計1
カナダ	学部合計1 大学院合計1 総合計2	韓国(・朝鮮)	カンボジア	キルギス	ケニア共和国	コンゴ民主共和国	ジャマイカ
スリランカ	タイ	台湾	タジキスタン	タンザニア	中国	トンガ王国	ナイジェリア
大学院合計2 総合計2	大学院合計2 総合計2	学部合計22 大学院合計2 総合計24	学部合計1 総合計1	大学院合計4 総合計4	学部合計991 大学院合計250 総合計1241	学部合計1 総合計1	大学院合計1 総合計1
ニュージーランド	ネパール	パキスタン	バヌアツ共和国	バプアニューギニア	フィジー	フィリピン	ブラジル
学部合計2 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2	大学院合計1 総合計1	大学院合計1 総合計1	大学院合計2 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2	大学院合計1 総合計1	学部合計1 総合計1
フランス	ベトナム	ポーランド共和国	ポルトガル	マダガスカル共和国	マラウイ共和国	マレーシア	南アフリカ
学部合計2 総合計2	学部合計20 大学院合計3 総合計23	学部合計1 総合計1	学部合計1 総合計1	大学院合計1 総合計1	大学院合計2 総合計2	学部合計45 大学院合計3 総合計48	学部合計1 総合計1
南スーダン	ミャンマー	モザンビーク	モンゴル	ルワンダ	ロシア		
大学院合計1 総合計1	学部合計33 大学院合計1 総合計34	学部合計1 総合計1	学部合計8 大学院合計1 総合計9	大学院合計3 総合計3	大学院合計1 総合計1		

学部(第1部)合計1,255名
大学院合計316名
総計1,571名

就職データ

就職率 (2025年3月卒業生)

98.5%

学内企業セミナー参加社数(2024年度)

667社

学部別進路状況 (学部第1部)

学部	就職率	就職者率	進学率	進路決定率
文学部	98.6%	83.4%	3.7%	87.2%
経済学部	97.2%	83.3%	3.6%	86.9%
経営学部	98.3%	86.2%	1.1%	87.4%
法学部	99.3%	87.5%	2.9%	90.3%
社会学部	98.2%	82.2%	6.6%	88.8%
国際学部	98.2%	77.2%	5.8%	83.1%
国際観光学部	100.0%	93.1%	0.6%	93.7%
理工学部	99.2%	72.7%	22.8%	95.5%
総合情報学部	98.5%	81.1%	8.6%	89.8%
生命科学部	96.9%	64.8%	25.5%	90.3%
食環境科学部	98.8%	88.6%	7.6%	96.2%
ライフデザイン学部	97.8%	88.2%	1.6%	89.8%
情報連携学部	98.4%	89.9%	3.9%	93.8%
合計	98.5%	83.1%	6.7%	89.8%

就職率 = 就職者数 ÷ 就職希望者数 (就職者数 + 卒業時点で就職活動中の者) × 100
就職者率 = 就職者数 ÷ 卒業者数 × 100
進学率 = 進学者数 ÷ 卒業者数 × 100
進路決定率 = (就職者数 + 進学者数) ÷ 卒業者数 × 100
※学部名については卒業生在籍時の名称を適用

主な就職先

【第1部文学部】	【第1部社会学部】	【生命科学部】	【情報連携学部】
東京都教育委員会 埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会 東京都庁 株式会社JTB 株式会社マイナビ 日本航空株式会社 株式会社講談社 株式会社みずほ銀行 株式会社サイバーエージェント	東京都庁 株式会社良品計画 第一生命保険株式会社 株式会社エイチ・アイ・エス 株式会社JTB ソフトバンク株式会社 トヨタ自動車株式会社 株式会社コーセー 株式会社ブリヂストン 日産自動車株式会社	株式会社東ハト 赤城乳業株式会社 日清丸紅飼料株式会社 第一三共株式会社 株式会社アルビオン リコージャパン株式会社 富士通株式会社 荏原実業株式会社 株式会社日立ハイテック 埼玉県庁	楽天グループ株式会社 TOPPAN株式会社 株式会社日立製作所 東日本電信電話株式会社 (NTT東日本) Apple Japan 合同会社 アクセンチュア株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 埼玉県庁 本田技研工業株式会社 セイコーエプソン株式会社

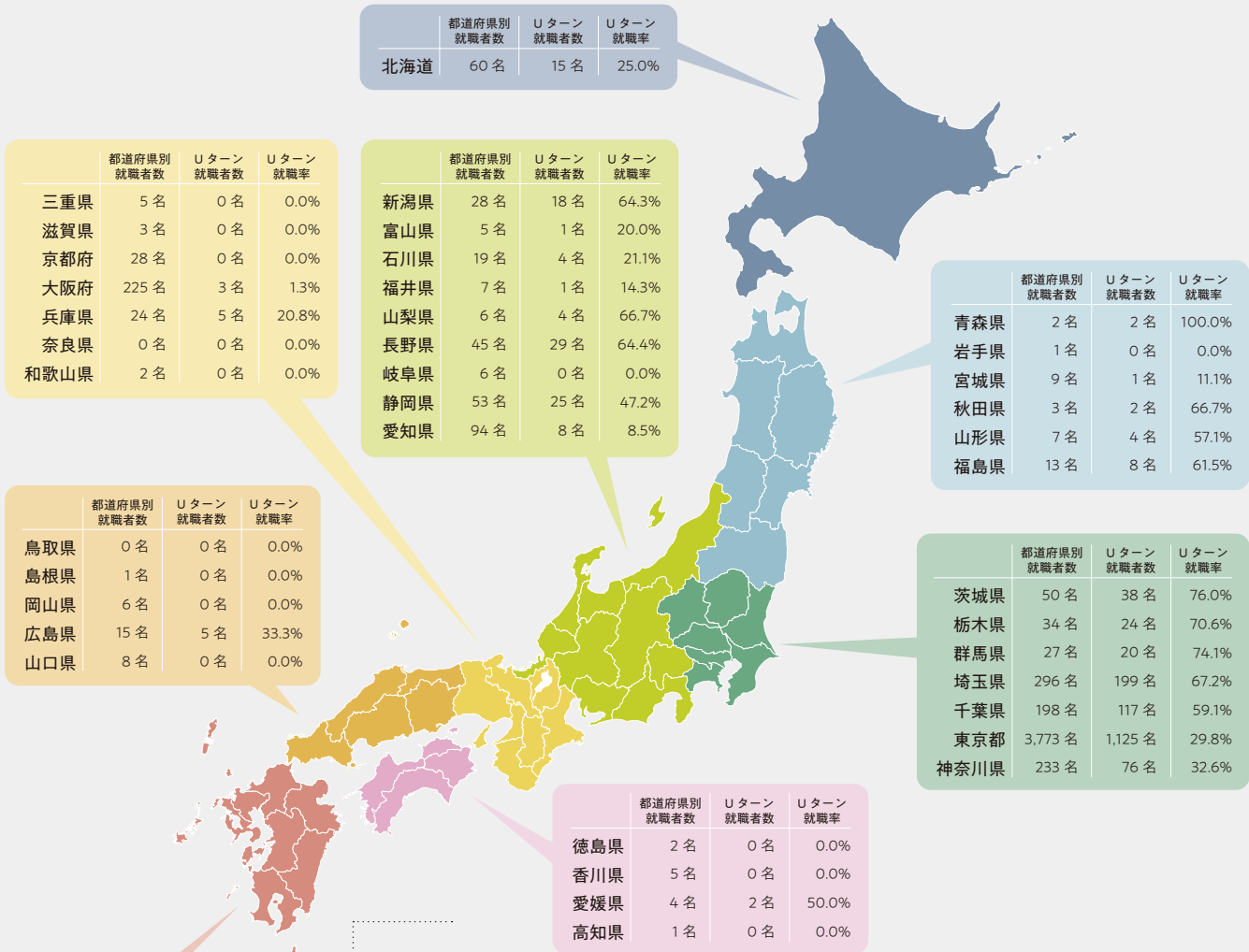
【第1部経済学部】	【第1部国際学部】	【ライフデザイン学部】
東京都庁 みずほ証券株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 株式会社オリエンタルランド 株式会社キーエンス 株式会社帝国データバンク YKK AP株式会社 株式会社日本政策金融公庫 国土交通省 東京国税局	日本航空株式会社 株式会社エイチ・アイ・エス アクセンチュア株式会社 クラブツーリズム株式会社 全日本空輸株式会社 郵船ロジスティクス株式会社 SCSK株式会社 スターバックスコーヒージャパン株式会社 ソフトバンク株式会社 株式会社コーセー	神奈川県庁 全日本空輸株式会社 東京都庁 福祉局 社会福祉法人二葉保育園 児童養護施設二葉学園 株式会社LIFE CREATE 東京都教育委員会 株式会社ダンロップスポーツマーケティング 株式会社乃村工藝社 三井ホーム株式会社 株式会社クボタ

【第1部経営学部】	【第1部国際観光学部】	【総合情報学部】
株式会社りそなホールディングス 株式会社京葉銀行 日本生命保険相互会社 東京国税局 東京都庁 アマゾンジャパン合同会社 楽天グループ株式会社 株式会社キーエンス 株式会社サイバーエージェント デロイト・トーマツコンサルティング株式会社	近畿日本ツーリスト株式会社 株式会社JTB 株式会社JALスカイ 日本航空株式会社 株式会社エイチ・アイ・エス ANAエアポートサービス株式会社 クラブツーリズム株式会社 株式会社ベニンシュラ東京 株式会社星野リゾート 全日本空輸株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社 株式会社小学館集英社プロダクション ワーナーブラザーススタジオジャパン(合) 株式会社コーエーテクモホールディングス 株式会社LIXIL トヨタ自動車株式会社 日本製鉄株式会社 大塚製薬株式会社 株式会社SUBARU 千代田区役所

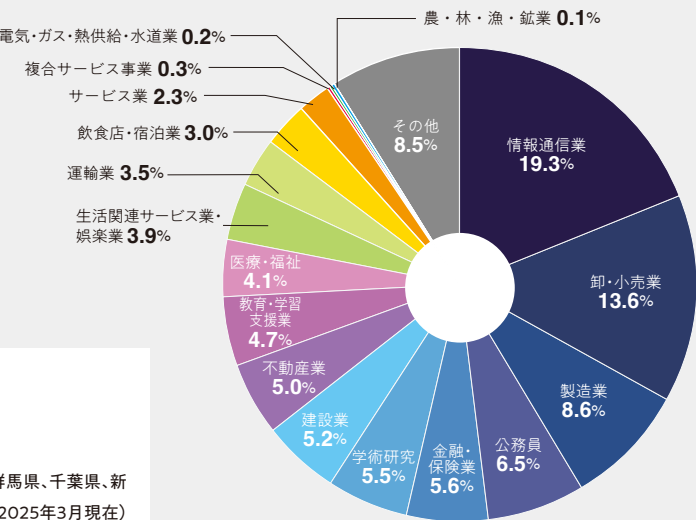
【第1部法学部】	【理工学部】	【食環境科学部】
警視庁 株式会社千葉銀行 千葉県庁 東京都庁 関東信越国税局 東京国税局 トヨタ自動車株式会社 株式会社ロッテ 本田技研工業株式会社 株式会社帝国データバンク	清水建設株式会社 住友林業株式会社 ソフトバンク株式会社 東京都庁 東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 東京電力ホールディングス株式会社 株式会社SUBARU 三菱電機株式会社 森永製菓株式会社 東日本電信電話株式会社 (NTT東日本)	カルビー株式会社 ケンコーマヨネーズ株式会社 グリコマニファクチャリングジャパン株式会社 明星食品株式会社 ユニ・チャーム株式会社 長谷川香料株式会社 株式会社SUBARU 独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ 学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東京都教育委員会

東京都教育委員会

都道府県別／Uターン就職状況



業種別就職状況 (学部第1部)



21自治体と就職支援協定を締結

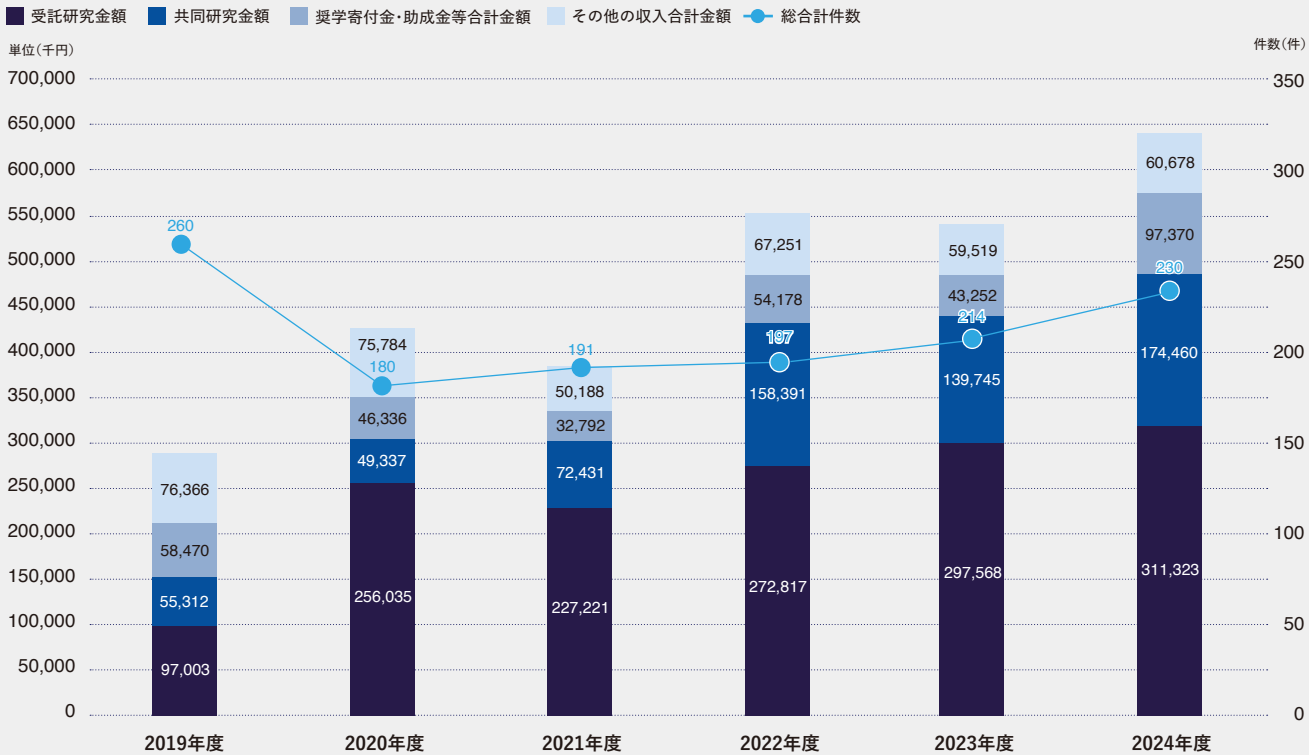
以下の自治体と、学生のU・Iターン就職を促進するための協定を締結しています。

(地方就職促進事業加盟を含む)

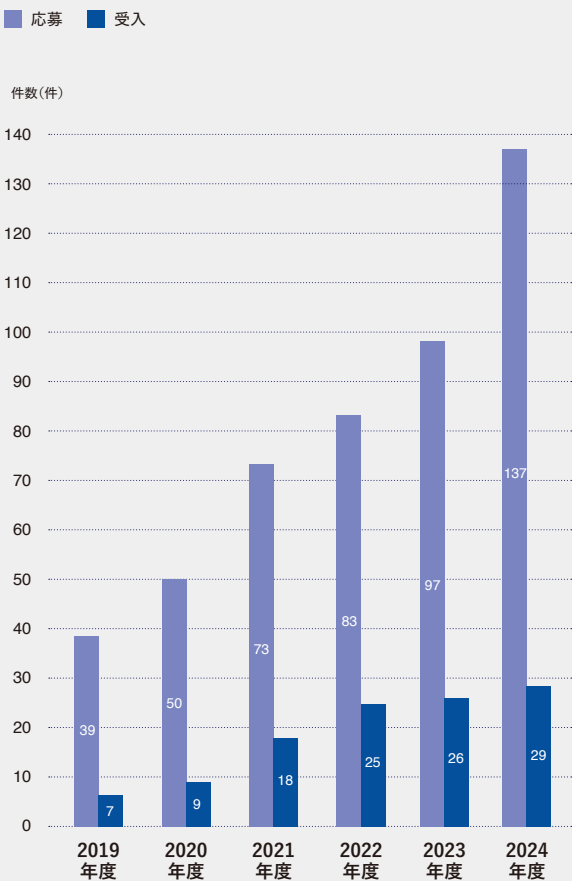
北海道、札幌市、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、大阪府、兵庫県、福岡県 (21自治体／2025年3月現在)



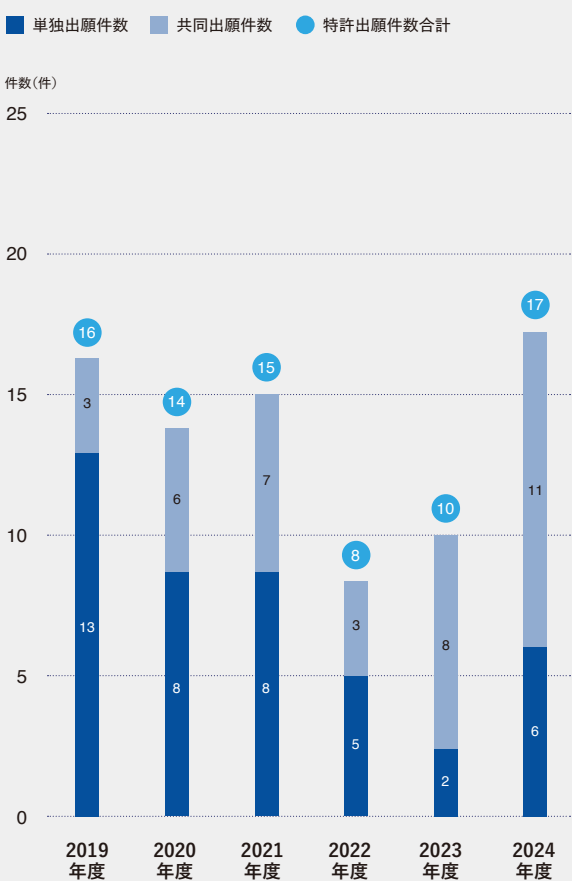
■ 受託研究・共同研究・奨学寄付金・助成金その他の収入総合計



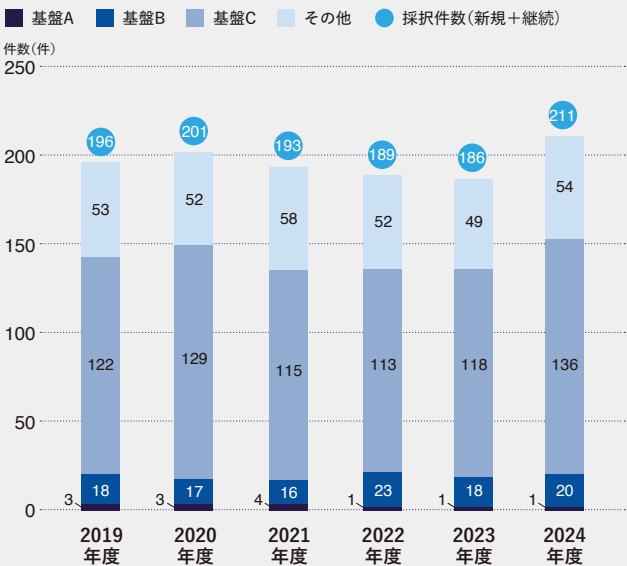
■ 学外研究助成応募・受入数の推移



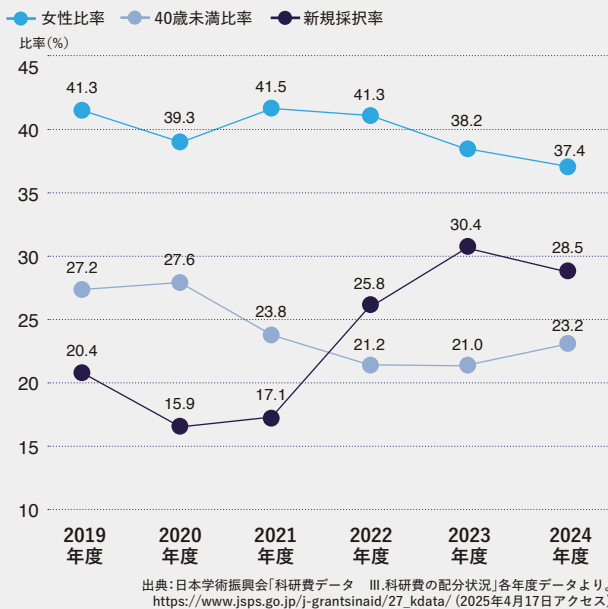
■ 特許出願件数



■ 科研費採択状況(新規+継続)



■ 科研費採択状況(新規+継続)

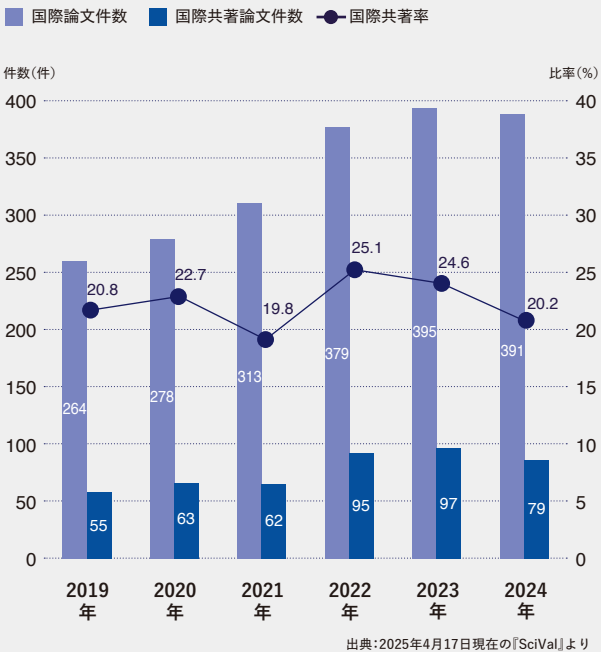


■ 科研費採択状況(2019年度~2024年度の累計採択件数)

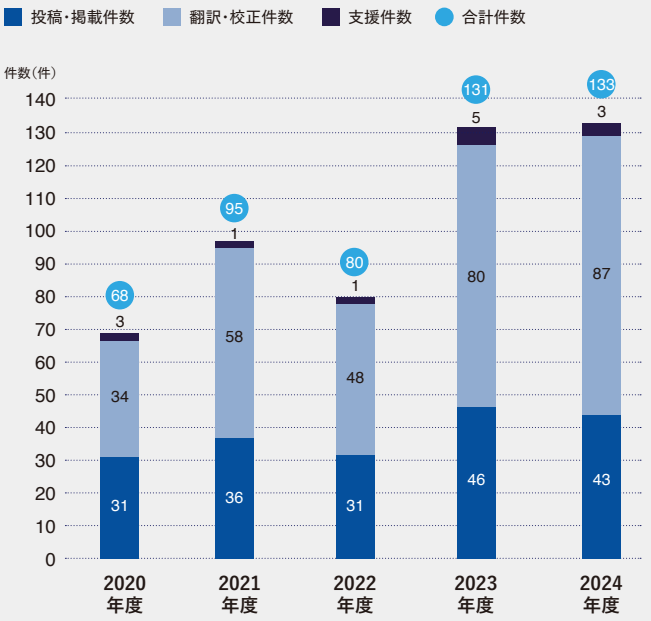
学術変革領域研究 (A)	2	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (A))	2
学術変革領域研究 (B)	1	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	1
基盤研究 (A)	1	若手研究	102
基盤研究 (B)	36	新学術領域研究 (研究領域提案型)	3
基盤研究 (C)	254	挑戦的研究 (開拓)	1
研究活動スタート支援	22	挑戦的研究 (萌芽)	4
国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	1	特別研究員奨励費	11
総計			441

出典: 国立情報学研究所「KAKEN-研究課題をさがす」「科学研究費助成事業データベース」より。
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/> (2025年4月17日アクセス)

■ 国際論文・国際共著論文数の推移



■ 国際学術誌への学術論文投稿助成制度件数の推移





図書館データ／学位授与状況／教職データ

■ 図書館データ

図書所蔵数(2025年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	745,570	218,028	963,598
川越図書館	147,434	57,320	204,754
朝霞図書館	77,860	10,835	88,695
赤羽台図書館	259,187	25,314	284,501

雑誌所蔵タイトル数(2025年3月31日現在)

	和雑誌	洋雑誌	合計
白山図書館	6,455	3,203	9,658
川越図書館	1,009	1,308	2,317
朝霞図書館	327	188	515
赤羽台図書館	1,630	473	2,103

入館者数(2024年度開館日)

	開館日数	延べ入館者数
白山図書館	295	447,561
川越図書館	272	100,593
朝霞図書館	292	78,598
赤羽台図書館	270	77,162

■ 学位授与状況 (2024年4月1日～2025年3月31日授与)

	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
文学研究科	0	0	18	0	0
社会学研究科	0	0	14	1	0
法学研究科	0	0	6	1	0
経営学研究科	0	0	32	1	0
理工学研究科	4	1	107	3	0
経済学研究科	9	0	26	1	0
国際学研究科	14	0	9	0	0
国際観光学研究科	2	0	8	1	0
国際地域学研究科		0		0	0

	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
生命科学研究科	1	0	35	2	0
社会福祉学研究科	1	0	8	4	0
ライフデザイン学研究科	0	1	12	2	0
福祉社会デザイン研究科		0		2	0
学際・融合科学研究科	1	0	0	0	0
総合情報学研究科	2	3	21	0	0
食環境科学研究科	0	0	8	1	0
情報連携学研究科	0		9	0	
健康スポーツ科学研究科			18		
合計	34	5	331	19	0

■ 教育職員免許状申請状況(2025年3月1日現在)

白山キャンパス

	学部	申請者数	小1種	中1種			高1種									特支1種	教科計
				国語	社会	英語	国語	書道	地歴	公民	商業	英語	福祉	情報			
第1部	文学部	182	39	17	80	28	22	3	81	58	0	28	0	0	14	370	
	経済学部	9	0	0	7	0	0	0	6	8	0	0	0	0	0	21	
	経営学部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	法学部	11	0	0	9	0	0	0	8	10	0	0	0	0	0	27	
	社会学部	8	0	0	7	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	19	
	国際地域学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	科目等履修生	6		3	1		3		3	2						12	
	第1部合計	217	39	20	104	28	25	3	104	84	1	28	0	0	14	450	
第2部	文学部	13	0	3	9	0	4	1	9	6	0	0	0	0	0	32	
	経済学部	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	
	経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	法学部	3	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	5	
	社会学部	5	0	0	5	0	0	0	4	5	0	0	0	0	0	14	
	科目等履修生	4			2				3		1					6	
	第2部合計	27	0	3	19	0	4	1	18	15	1	0	0	0	0	61	
白山キャンパス 合計		244	39	23	123	28	29	4	122	99	2	28	0	0	14	511	

赤羽台キャンパス

学部	申請者数	幼1種	養1種	中1種			高1種					教科計
				理科	保健	保健体育	理科	保健	保健体育	工業	工芸	
ライフデザイン学部	139	91	17	0	8	31	0	8	30	1	0	186
食環境科学部	4	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0	7
赤羽台キャンパス 合計	143	91	17	3	8	31	4	8	30	1	0	193

朝霞キャンパス

学部	申請者数	中1種	高1種	教科計
		理科	理科	
生命科学部	27	27	27	54
食環境科学部	3	3	3	6
理工学部	7	7	7	14
朝霞キャンパス 合計	37	37	37	74

川越キャンパス

学部	申請者数	中1種		高1種				教科計
		数学	理科	数学	理科	情報	工業	
理工学部	35	15	13	16	13	0	11	68
総合情報学部	6	0	0	0	0	6	0	6
川越キャンパス 合計	41	15	13	16	13	6	11	74

専修免許状

研究科	申請者数		小専修	中専修								高専修								特支専修	養護専修	教科計		
				国語	社会	英語	数学	理科	保健	保健体育	宗教	国語	地歴	公民	英語	数学	理科	保健	保健体育				宗教	工業
文学研究科	7	2		1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
経済学研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際地域学研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学研究科	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工学研究科	1	0		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
健康スポーツ科学研究科	2	0		0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	5	
生命科学研究科	4	0		0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	8
専修免許状 合計	14	2		1	3	0	0	5	1	1	0	1	2	1	0	0	5	1	1	0	0	1	1	26

教育職員免許状
申請者数 合計

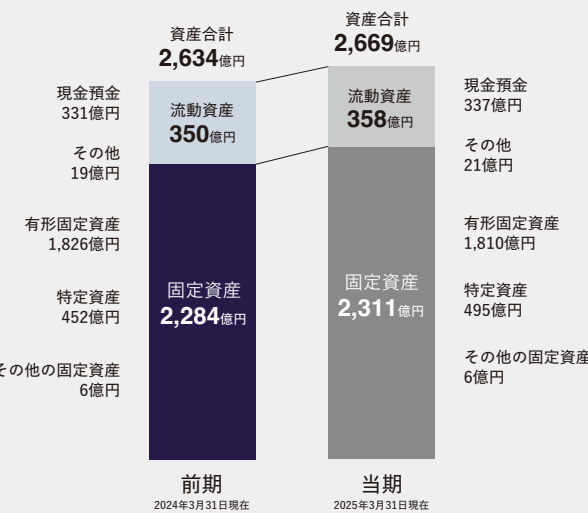
479名



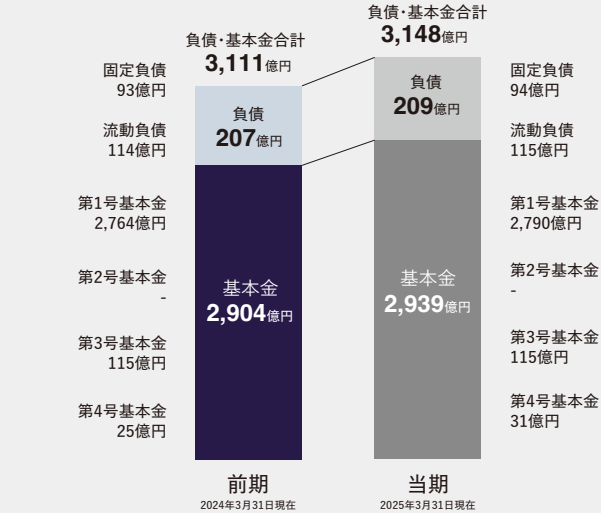
経済・財政

■ 2024年度 決算

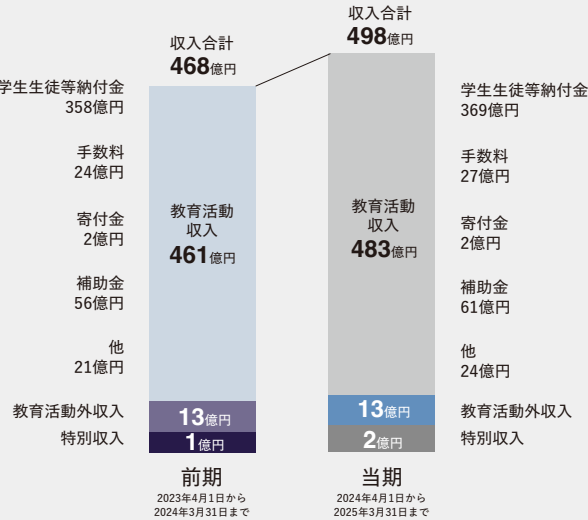
資産の状況



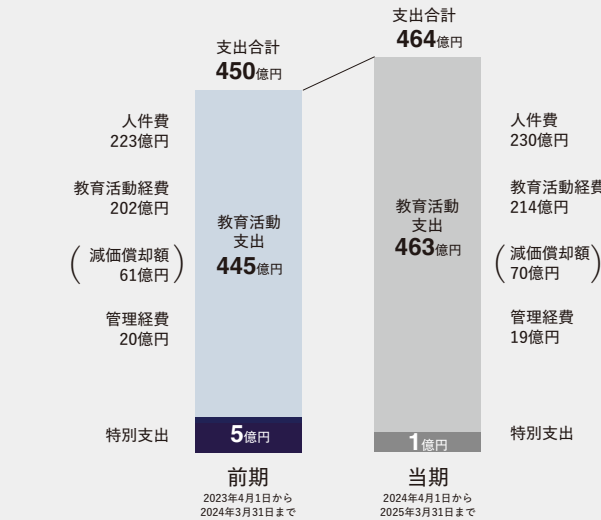
負債・基本金の状況



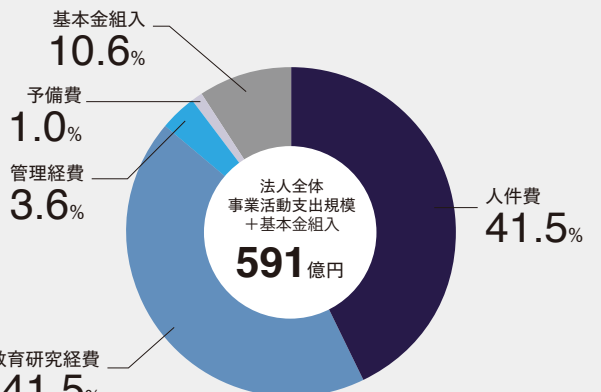
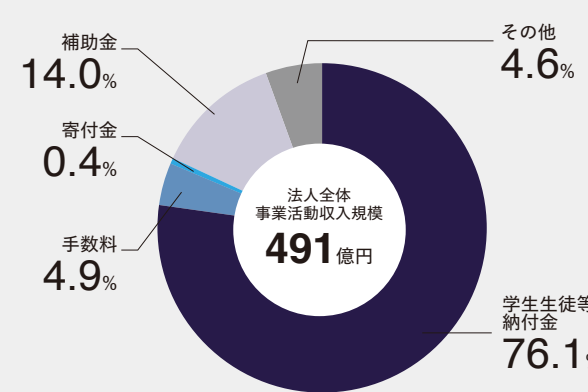
事業活動収入の状況



事業活動支出の状況



■ 2025年度 予算規模



経済・財政

■ 資金収支計算書

一事業年度における現金預金の収入および支出の一覧です。

(単位:百万円)					
収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	35,719	35,278	35,355	35,795	36,905
手数料収入	2,257	2,300	2,134	2,399	2,730
寄付金収入	366	282	317	175	232
補助金収入	5,277	5,538	5,763	5,643	6,167
資産売却収入	322	50	0	4,127	0
付随事業・収益事業収入	568	723	1,234	1,406	1,310
受取利息・配当金収入	336	724	436	1,300	1,251
雑収入	901	1,244	759	727	994
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	7,894	8,130	8,561	9,101	9,406
その他の収入	7,791	8,020	10,664	2,204	2,387
資金収入調整勘定	△9,835	△9,171	△9,025	△9,600	△10,188
前年度繰越支払資金	32,006	32,093	30,300	35,775	33,145
収入の部合計	83,603	85,212	86,497	89,053	84,340

(単位:百万円)					
支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	21,502	21,797	21,597	22,169	22,862
教育研究経費支出	12,164	11,884	12,557	14,050	14,385
管理経費支出	1,483	1,650	1,684	2,043	1,901
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	10,650	11,949	10,060	8,441	912
設備関係支出	1,894	1,354	3,285	2,184	4,606
資産運用支出	3,587	4,646	1,755	4,908	4,639
その他の支出	2,400	3,144	2,580	3,754	2,719
資金支出調整勘定	△2,170	△1,512	△2,797	△1,640	△1,393
翌年度繰越支払資金	32,093	30,300	35,775	33,145	33,710
支出の部合計	83,603	85,212	86,497	89,053	84,340

■ 活動区分資金収支計算書

活動区分ごとの現金預金の収支の明細です。

(単位:百万円)					
科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	44,874	45,158	45,292	46,082	48,257
教育活動資金支出計	35,148	35,331	35,825	38,181	39,147
差引	9,726	9,827	9,467	7,902	9,110
調整勘定等	△150	189	1,071	221	218
教育活動資金収支差額	9,576	10,016	10,538	8,123	9,328
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	5,273	5,095	8,081	59	75
施設整備等活動資金支出計	15,684	17,443	14,385	10,665	9,577
差引	△10,412	△12,348	△6,304	△10,606	△9,502
調整勘定等	564	△214	974	△958	△333
施設整備等活動資金収支差額	△9,847	△12,562	△5,331	△11,564	△9,835
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△271	△2,546	5,208	△3,441	△507
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,787	2,243	2,012	6,729	2,693
その他の活動資金支出計	1,455	1,497	1,739	5,900	1,643
差引	332	746	273	829	1,050
調整勘定等	26	7	△5	△20	23
その他の活動資金収支差額	358	753	268	810	1,073
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	87	△1,793	5,476	△2,631	566
前年度繰越支払資金	32,006	32,093	30,300	35,775	33,145
翌年度繰越支払資金	32,093	30,300	35,775	33,145	33,710

■ 事業活動収支計算書

経営状況や財政状態を正しく理解でき、「教育の持続性」に対する判断に役立ちます。

(単位:百万円)					
科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	35,719	35,278	35,355	35,795
	手数料	2,257	2,300	2,134	2,399
	寄付金	388	289	329	182
	経常費等補助金	5,138	5,505	5,688	5,597
	付随事業収入	568	723	1,234	1,406
	雑収入	836	1,086	570	722
	教育活動収入計	44,906	45,182	45,311	46,101
	事業活動支出の部				
	人件費	21,599	21,847	21,726	22,329
	教育研究経費	16,662	17,258	18,049	20,169
	管理経費	1,529	1,695	1,711	2,002
	徴収不能額等	0	0	0	0
	教育活動支出計	39,789	40,800	41,487	44,499
	教育活動収支差額	5,118	4,382	3,824	1,602
教育活動外収支	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	336	724	436	1,300
	その他の教育活動外収入	56	160	182	0
	教育活動外収入計	392	884	618	1,300
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	13	0
	教育活動外支出計	0	0	13	0
	教育活動外収支差額	392	884	605	1,300
	経常収支差額	5,509	5,266	4,429	2,902
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	4	29	0	2
	その他の特別収入	213	111	147	143
	特別収入計	217	140	147	145
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	205	1,263	356	399
	その他の特別支出	0	0	3	81
	特別支出計	205	1,263	359	479
	特別収支差額	12	△1,123	△213	△335
	基本金組入前当年度収支差額	5,521	4,143	4,217	2,567

基本金組入前当年度収支差額	5,521	4,143	4,217	2,567	3,214
基本金組入額合計	△1,275	△7,334	△5,987	△9,665	△3,489
当年度収支差額	4,246	△3,191	△1,770	△7,098	△274
前年度繰越収支差額	△39,928	△35,682	△38,873	△40,643	△47,741
基本金取崩額	0	0	0	0	1
翌年度繰越収支差額	△35,682	△38,873	△40,643	△47,741	△48,015

(参考)

事業活動収入計	45,515	46,206	46,075	47,546	49,703
事業活動支出計	39,994	42,063	41,858	44,979	46,489

■ 貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位:百万円)

	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末
固定資産	216,818	222,766	223,747	228,383	231,058
流動資産	34,649	32,477	37,495	34,966	35,759
資産の部合計	251,467	255,243	261,242	263,349	266,816
固定負債	8,938	8,984	9,095	9,255	9,416
流動負債	10,777	10,363	12,033	11,414	11,506
負債の部合計	19,715	19,347	21,129	20,669	20,922
基本金	267,435	274,769	280,756	290,421	293,909
繰越収支差額	△35,682	△38,873	△40,643	△47,741	△48,015
純資産の部合計	231,753	235,896	240,113	242,680	245,894
負債および純資産の部合計	251,467	255,243	261,242	263,349	266,816

■ 財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	全国平均 (医療系法人を除く)
事業活動収支差額比率[基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入]	12.1	9.0	9.2	5.4	6.5	4.2
学生生徒等納付金比率[学生生徒等納付金／経常収入]	78.9	76.6	77.0	75.5	74.5	72.9
寄付金比率[寄付金／事業活動収入]	1.0	0.8	0.9	0.6	0.7	2.2
補助金比率[補助金／事業活動収入]	11.6	12.0	12.5	11.9	12.4	14.4
人件費比率[人件費／経常収入]	47.7	47.4	47.3	47.1	46.5	50.9
教育研究経費比率[教育研究経費／経常収入]	36.8	37.5	39.3	42.5	43.2	36.6
管理経費比率[管理経費／経常収入]	3.4	3.7	3.7	4.2	3.9	8.7
借入金等利息比率[借入金等利息／経常収入]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
基本金組入率[基本金組入額／事業活動収入]	2.8	15.9	13.0	20.3	7.0	9.7
減価償却額比率[減価償却額／経常支出]	11.3	13.2	13.3	13.8	15.2	11.4
人件費依存率[人件費／学生生徒等納付金]	60.5	61.9	61.5	62.4	62.4	69.8
基本金組入後収支比率[事業活動支出／事業活動収入－基本金組入額]	90.4	108.2	104.4	118.7	100.6	106.1
経常収支差額比率[経常収支差額／経常収入]	12.2	11.4	9.6	6.1	6.4	3.5
教育活動収支差額比率[教育活動収支差額／教育活動収入計]	11.4	9.7	8.4	3.5	4.0	1.2

「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

「寄付金」＝教育活動収支の寄付金＋特別収支の施設設備寄付金及び現物寄付

「補助金」＝経常費等補助金＋施設設備補助金

■ 寄付金状況

寄付金の種類	2024年度	
	金額	件数
特別寄附金	215,282千円	4,843件
奨学寄付金	52,450千円	27件
教育・研究協力資金	129,959千円	4,665件
教育・研究協力資金(施設)	11,794千円	92件
その他の特別寄付金	21,078千円	59件
古本募金	19千円	1件
リユース募金	3千円	8件
リサイクル募金	236千円	45件
その他	20,821千円	5件
一般寄付金	17,000千円	2件
現物寄付金	113,193千円	514件
合計	345,475千円	5,359件

■ 補助金状況

(単位:千円)

補助金の種類	2024年度 補助金額
国庫からのその他の補助金	4,425,241
私立大学等経常費補助金	2,928,670
一般補助	2,710,330
特別補助	218,340
成長力強化に貢献する質の高い教育	8,000
大学等の国際交流の基盤整備	49,378
大学院等の機能の高度化	142,717
令和6年能登半島地震、梅雨前線、9月豪雨からの復興支援	1,245
私立大学等改革総合支援事業	17,000
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	62,136
国際化拠点整備事業費補助金(大学の世界展開力強化事業)	16,573
大学・高専成長分野転換支援基金助成金	6,000
大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免費交付金	1,390,610
その他の補助金	21,252
地方公共団体等からの補助金	1,741,866
私立学校経常費補助金	1,451,439
授業料軽減補助金・入学金軽減補助金	236,603
その他の補助金	53,824
合計	6,167,107